

第八十六回
帝國議會 貴族院 地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ關スル法律案特別委員會議事速記録第四號

付託議案

○船員保險法中改正法律案

昭和二十年二月二日(金曜日)午前十一時十七分開會

○委員長(佐藤三郎) 只今ヨリ

本委員會ヲ開催致シマス、前回ニ厚生大臣ヨリ御説明ヲ伺ヒマシタ船員保險法中改正法律案ニ對シマシテ、質疑ヲ御許シ致シマス、前回ニ改正法律案ニ付テ政府ノ細目ニ互ル説明ヲ御要求ニナリマシタノデ、只今ヨリ政府委員ノ説明ヲ御許シ致シマス

○政府委員(伊藤三郎) 船員保險制度ノ改正ニ付キマシテ、逐條的ニ説明シテ貰ヒタイト云フ風ナ御要求デゴザイマシタノデ、御覽ノ通り、ナカ

ナカ條文ガ複雑致シテ居リマスノデ、條ヲ逐ツテ説明致シマスト却テ混雜スル虞ガアルヤウニ感ジマスノデ、恐縮デゴザイマスガ、御手許ニ御配リ致シテアリマス、船員保險制度要旨新舊比較對照表」ト云フノガゴザイマスノデ、之ヲ土臺ニシテ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、ドウカ之ヲ御覽ニナリナガラ御聴取リテ願ヒタイト存ジマス、最初ニ被保險者ノ範圍ニ付テ改正ヲ加ヘム、マル次第デアリマスガ、先ヅ強制被保險者デゴザイマス、現行法デハ強制被保險者ハ船員法第一條ニ規定スル船員ノミヲ被保險者ニ致シテ居リマスノデ、アリマスガ、今日多數ノ豫備船員ガゴザイマスガ、此ノ豫備船員諸君ノ方カラ、豫備船員モ來ルベキ航海ニ乗出ス爲ニ待機ノ姿勢ニアルノデアツテ決シテ遊ンデ居ル譯デハナイ、從ツテ

豫備船員ト雖モ船員保險ノ被保險者ニシテ貰ヒタイ、斯様ナ熱望ガアル次第ナノデアリマシテ、誠ニ尤モナ次第ト存ジマスノデ、此ノ豫備船員ヲモ被保險者ノ範圍ニ加ヘタイト存ジテ居ル次第デゴザイマス、尙入營、應召中ノ船員モ今日ノ現行法デハ被保險者ノ範圍ニ加ツテ居リマセヌケレドモ、是亦齊シク被保險者ノ範圍ニ加ヘタイト思フノデアリマス、此ノ改正ハ法律第十七條ニ關係致シテ居リマス

○村上恭一君 ちヨツト申言デスガ、

今ノ御説明ハ大體ニ於キマシテモウ少シ詳シク願ヒタイト思ヒマス、ト云フノハ新舊ノ第十七條ニ基キマスルト、官吏又ハ待遇官吏ト云フモノガ現行法ニハアツテ改正案ニハアリマセヌ、ソレハ豫備船員ヲ含ムマツト云フコトデハ割切レナイヤウニ思ヒマス、チヨツト氣ガ付キマシタガ、モウ少シ丁寧ニ、同時ニ改正ノ理由、ドウシテ斯ウ云フ改正ヲスルカト云フコトモ、詳シク言ヒマシテハキリガアリマセヌガ、一應ハ分リマス程度ニ御附加ヘ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(伊藤三郎) 最初ニ御尋

ガゴザイマシタ官吏又ハ待遇官吏ト云フノガ法律ノ第十七條ニ現在デハ除外規定ノ中ニ入ツテ居ルノデアリマスガ、今回ノ改正案ニハ十七條ニ官吏又ハ待遇官吏ト云フ條項ト云フモノヲ削除致シテ居リマス、是ハ此ノ改正案ノ第十五條ノ改正ガゴザイマシテ、第十五條中ニ「國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ屬スル船

舶ニ乗組ム船員」ニ付テハ特別ノ規定ヲ爲シ得ルコト云フ條項ガ現行法ニゴザイマス、之ヲ少シク字句ヲ變ヘマセケレドモ、變ヘマシテ「國、東京都、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ」ニ使用セラルル者」ニ付テハ特別ノ規定ヲ設ケル、斯様ナ條文ニ今回改正ヲ致シマシタ、其ノ改正ニ從ヒマシテ、國カラ俸給ヲ受ケマスル官吏又ハ待遇官吏ハ齊シク船員保險ノ被保險者ハ現行法通り除外スルコトニナツテ居リマス、但シ御承知ノヤウニ、先般船員保險待遇令ガ出マシテ、船員ノ大部分ノ人々ガ國ノ待遇官吏ニナルコトニナリマス、ナリマスルケレドモ、併シナガラ是等ノ船員各位ハ俸給ハ國カラ受ケマセヌデ、船舶運賃會カラ俸給ヲ支給サレマスノデ、官吏ノ待遇ヲ受ケマセヌ、從ヒマシテ是等ノ諸君ハ齊シク船員保險ノ被保險者トシテ、今後モ繼續シテ行ク豫定デアルノデアリマス、ソレカラ豫備船員ヲ被保險者ノ範圍ニ入レマスル次第デアリマスルガ、現在ノ現行法デハ乗船中ノ船員ニ限ツテ被保險者ト云フコトニナツテ居リマス、

船員ニ乗組ムマシタ時カラ被保險者ニナリマシテ、下船致シマスト被保險者デナクナルノデアリマス、從ヒマシテ船員保險法ノ非常ニ強ク組ツテ居リマスル養老年金トカ云ツタヤウナ支給ヲ受ケマスルニ付キマシテハ、十五年間ノ被保險者期間ヲ被保險者トシテ居ナケレバナラヌ譯デアリマスガ、豫備船員トシテ下船中デアリマスル間ハ被保險者デゴザイマセヌ、從ツテ其ノ期間ハ十五年ノ期間ニ加算セラレナイコトニ

ナルノデアリマス、併シナガラ現在下船中船員ト申シマシテモ、下船中遊ンデ居ル譯デハナイノデアリマス、シテ、矢張り船舶所有者ニ雇傭セラレテ居ル關係ニアリマスルノデ、次ノ航海ニ乗出スベク待機ノ姿勢ニ居ルノデアリマス、從ツテ其ノ期間モ被保險者期間ニ入レテ貰ヒタイ、尙養老年金其ノ他ノ年金給付ノ基礎計算ニナルノミナラズ被保險期間中色々疾病ノ療養ノ給付デアルトカ、傷病手当金ノ支給、サウ云フヤウナ諸種ノ給付ガ、待機中ノ豫備船員ト雖モ給付シテ貰ヒタイ、斯様ナ希望ガゴザイマシテ、是ハ誠ニ尤モナ次第ト存ジマスノデ、今回此ノ豫備船員モ齊シク被保險者ノ範圍ニ入レマスル様ニ存ジテ居ル次第デゴザイマス、ソコ其ノ法律ノ第十七條ニ改正ヲ加ヘマシテ、船員法第一條ノ規定ハ船員ノミニ限定シナイデ、其ノ次ニ又ハ同法同條ニ規定スル船員タルベキ者トシテ船舶所有者ニ使用セラル、者ハ船員法第一條ニ規定スル船員トシテ、船員タルベキ者トシテ船舶所有者ニ使用セラル、期間ハ被保險者デアル、斯様ニ改正致シタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、大體強制被保險者ノ範圍ノ改正ニ付キマシテハ只今申上ゲタヤウナ次第デアリマス、其ノ次ニ任意繼續被保險者デゴザイマスガ、是ハ法律ノ第二十條ノ改正ニナリマス、是ハ現行法デハ十年以上被保險者タリシ者デナケレバ任意繼續被保險者ニナリ得ナイコトニナツテ居ルノデアリマスガ、其ノ期間ヲ短縮致シマシテ、七年以上被保險者デアリマスレバ、任意繼續被保險者タリ得ルヤ

ウニ致シタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、此ノ任意繼續被保險者ト申シマスノハ、一定ノ年限被保險者デアツタ者ガ已ムヲ得ザル事由デ船員タルコトヲ辭メタ場合ニ於テモ尙本人ガ保險料ヲ納付スルナラバ、十五年ニ達シマスレバ、養老年金ヲ支給シ得ル、斯様ナ資格ヲ與ヘル爲ニ斯様ナ制度ヲ設ケタヤウナ譯デアリマス、是ガ十年ト云フ期間ハ長キニ失シマス、又陸上勞務者ノ權衡カラ申シテモ七年ニスルノガ適當ダ、斯様ニ考ヘマシテ改正ヲ加ヘマシタ次第デアリマス、其ノ次ニ標準報酬デゴザイマスガ、是ハ法律ニハ關係ガゴザイマセヌデ、勅令ニ讓ツテ居ル、現行法デモ既ニ勅令ニ讓ツテ居ル條項デゴザイマスガ、是ハ最高限千八百圓ニ止メテアリマス、之ヲ今日ノ情勢ニ鑑ミマシテ三千圓迄引上ゲタイ、是ハ勅令事項デアリマスルケレドモ、保險料ノ徴收、各種保險給付ノ基準ニナリマス極メテ重要ナ事項デゴザイマス、茲ニ掲記致シテ置イタ譯デアリマシテ、之ヲ三千圓ニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ保險給付ニ入リマスガ、保險給付全般ヲ通ジテ申上ゲマス、保險給付ノ改正ニ付キマシテハ陸上勞務者ニ對スル保險給付ヨリモ劣ラナイヤウニ致シタイト云フノガ一つノ骨子ニナツテ居リマス、御承知ノヤウニ陸上勞務者ニ對シテハ健康保險、厚生年金保險ノ二本建デ行ツテ居リマスガ、船員ニ對シテハ船員保險一本建デ行ツテ居ル譯デアリマスガ、此ノ健康保險、厚生年金

保險ノ保險給付ニ劣ラナイヤウニ改正致シタイト云フノガツノ狙ヒデゴザイマス、尙特微ト致シマシテ職務上ノ事由ニ因ル不具發疾デアルトカ、或ハ死亡ト云フモノニ對シテハ、職務外ノ事由ニ因ル、普通一般事故ニ因ル所ノ不具發疾、疾病、死亡等ヨリモ全面的ニ保險給付ヲ宜クシヨウト云フ點ニ一ツノ特質ガデゴザイマス、現行法デハ職務上ノ事由ト職務外ノ事由トニ依ツテ差別ハ設ケテ居ナイノデアリマスガ、職務上ノ原因ニ基テ者ニ對シテハ厚ク給付ヲシタイ、是ハ陸上勞務者ニ對シマシテモ現在サウナツテ居リマスガ、左様ニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、尙モウ一ツ大キナ點ハ、現在ノ船員保險法デハ被保險者ガ死亡致シマシタ場合ニ遺族年金ト云フ制度ガアリマセヌノデゴザイマス、死亡手當金ト云フモノガ僅カニ支給サレルニ過ギマセヌ、此ノ死亡手當金ハ本人ノ報酬ノ大體三分分ガ支給サレマシテ、而モ其ノ三分分ノ死亡手當金ガ支給セラレルニ付キマシテハ、三年以上被保險者デナケレバナラヌト云フ風ナ制限ガアルノデアリマスガ、此ノ今日ノ決戦海上輸送ト申シマスガ、深刻ナル現下ノ状況カラ見マスルト云フト、船員ノ遺族ニ對スル遺族年金ヲドウシテモ創設シタイ、是ガ一ツノ大キナ狙ヒニナツテ居リマス、而モ被保險者タル期間三年以上ト云フ風ナ制限ヲ設ケテ居リマシタデハ、今日ノ實情ニソグハナイモノガゴザイマシテ、今日船員ニナリマシテ横濱ヲ出マシテ、翌日敵機ノ來襲ヲ受ケ、或ハ敵潛ノ襲撃ヲ受ケルト云フ場合モアリマスルシ、左様ナ職ニ殉ジタ者ニ對シマシテハ被保險者タル期間ニ何等ノ制限ヲ設ケズ、被保險者ニナ

リマシタ其ノ日デモ、其ノ翌日デモ、其ノ遺族ニ對シテ遺族年金ヲ支給スル、斯様ナ制度ニ致シタイ、斯ウ云フ風ナ狙ヒカラ致シマシテ、色々ノ改正ヲ條文ニ加ヘテ譯デゴザイマス、最初ニ保險給付ノ中ニ療養ノ給付デゴザイマスガ、是ハ第三十二條ノ改正デゴザイマス、現行法ノ病氣ニナリマシタ場合ノ療養ノ給付ハ九箇月間ニ限定シテ居リマス、但シ結核性疾患ニ限リマシテ半年ヲ加ヘテ、一年三箇月間療養給付ガ出來ルコトニナツテ居リマスガ、之ヲ今回改正致シマシテ、改正案ノ第三十二條デハ、療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ之ヲ爲サズ、斯ウ云フコトニ改正案ニ規定致シテ居リマスガ、此ノ勅令デ規定致シテ居リマスル豫定條項ヲ申上ゲマスル、職務上ノ原因ニ基イテ疾病傷病ヲ受ケマシタ者ニ對シマシテハ、無制限ニ完全ニ治療スルカ、若クハ治療ヲ要セザル狀態、即チ死亡ト言ツタヤウナ轉歸ニ至ル迄、無制限ニ療養ノ給付ヲ續ケタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、職務外ノ原因ニ基キマス疾病ニ付キマシテハ、大體陸上勞務者ト同様ニ、二年間ノ療養ノ給付ヲ支給スルト云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ現行法デハ第二十八條ノ第三項デゴザイマスガ、高級船員ニ付キマシテハ療養ノ給付、又其ノ次ニ出テ來マスルガ、傷病手當金ノ支給ト云ツタヤウナ、斯様ナ支給ハ、致サナイコトニナツテ居リマスガ、之ヲ同ジ船舶ニ乗込シテ居ツテ、高級船員ト普通船員トノ間ニ差別ガアツテ、高級船員ノ方ニハ療養ノ給付或ハ傷病手當金ノ支給ハナイ、從ツテ又保險料モ低イノデゴザイマス

ガ、高級船員ノ方ガ普通船員ヨリモ保險料ハ低イ、從ツテ今ノヤウナ保險給付ハナイ譯デアリマスルガ、是ガ船舶一家ノ精神、船舶一體ト云フヤウナ精神カラ致シマシテ、高級船員ト普通船員トノ間ニ、差別ヲ設ケルコトハ如何ニモ面白クナイ、斯様ナ狀態デゴザイマスルノデ、今回之ニ改正ヲ加ヘマシテ、高級船員モ普通船員モ齊シク同ジ率ノ保險料ヲ出シ、サウシテ同ジヤウニ保險ノ給付ヲ受ケルヤウニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ次ニ傷病手當金デゴザイマスガ、是亦療養ノ給付ト同様ニ、現行法デハ原則トシテ九箇月間、結核性疾患ハ一年三箇月ト云フコトニナツテ居リマスルガ、是亦療養ノ給付ト同様ニ、職務上ノ原因ニ基キマスルモノニ付キマシテハ、傷病手當金モ轉歸ニ至ル迄無制限ニ支給シタイ、職務外ノ原因ニ基キモノニ付キマシテハ、二年間ニ止メル、斯様ニ致サムトスル次第デアリマス、是ハ陸上勞務者ニ比シテ少シ宜シクゴザイマス、陸上勞務者ハ半年間デゴザイマスケレドモ、之ヲ二年間支給スルノデゴザイマスカラ、可ナリ宜イ譯デゴザイマス、此ノ改正關係ハ法律第三十條ノ改正デゴザイマス、支給額デゴザイマスガ、支給額ハ現在ト同ジヤウニ、大體報酬日額ノ百分ノ六十ニ致シテ居リマス、但シ入院シタル場合ニ於テ被扶養者ナキトキ、即チ獨身者デゴザイマスガ、獨身者ガ入院シタル場合ニハ、傷病手當金ノ現行法デハ百分ノ二十ヲ支給致シマスノ、之ヲ百分ノ四十ニ増額致シタイト思ツテ居リマス、是ハ勅令ノ方ニ出テ來ル事項デゴザイマスガ、掲記シテアリマス、尙高級船舶船員ニ付テ、現在支給シテ居リマスル者ニ支

給致シマスルコトハ先程申上ゲタ通りデゴザイマス、次ニ養老年金デゴザイマス、養老年金ノ支給條件ハ、是ハ現在ト同ジヤウニ十五年以上被保險者タルコトヲ要シ、且支給開始ハ五十歳ニ始マル、此ノ點ニハ何等變更ヲ加ヘマセヌ、支給額デゴザイマスガ、此ノ支給額ニ改正ヲ加ヘタイト存ジテ居ル次第デゴザイマシテ、是ハ法律第三十五條ノ改正デゴザイマス、是ガ現行法デハ本人ノ平均報酬月額ノ百分ノ二十五支給スルト云フコトニ現在デハナツテ居リマス、百分ノ二十五ト申シマス、月數ニ計算致シマス、丁度一年ノ四分ノ一、即チ三分分ト云フコトニナリマスガ、之ヲ改メマシテ一年ニ付テ平均給料ノ四分分ヲ支給シタイ、即チ年收額ノ三分ノ一、恩給法等ノ例ニ倣ヒマシテ、年收額ノ三分ノ一、四月分支給スルコトニ改メタイ、斯様ニ致シテ居ルノデアリマス、其ノ次ニ年限加算ノ問題デゴザイマスガ、十五年以上被保險者タリシ者ガ尙繼續シテ被保險者タル場合ニ、一年ヲ増ス毎ニ現行法デハ平均給料ノ百分ノ一、即チ三六日、三六日分ヅツ殖エテ行ク譯デゴザイマスガ、之ヲ六日分ニ致シタイ、一年ニ付テ六日分ヅツ加算ヲ加ヘルコトニ致シタイ、是ハ陸上勞務者厚生年金保險トノ權衡ヲ圖リマシテ、六日分位ニ致シマセヌト權衡ガ取レナイト云ツタヤウナコトカラ之ヲ説明致シマス、非常に細カクナリマスガ、左様ナ關係カラ六日分ニ改正致シタイト存ジテ居ルノデゴザイマス、此ノ關係ハ矢張り法律ノ第三十五條デゴザイマス、其ノ次ニ最低保障額、是ハ改正ノ第三十六條、第三十七條、ソレカラ第四十二條ノ三ニモ關係ヲ持ツテ來ルノデゴザイマス

ガ、最低保障額ト申シマスノハ、養老年金ノ支給ヲ受ケル者、若クハ養老年金ノ支給ヲ受ケ得ル資格アル狀態ニアル者ガ、死亡致シマシテ、サウシテ養老年金ヲ受取ルカ、若クハ全然養老年金ヲ受ケナイデ死シタト言ツタヤウナ場合ニ、其ノ遺族ニ對シマシテ、其ノ遺族ノ中ニ遺族年金ノ支給ヲ受ケ得ル資格ガアル者ガアリマスレバ遺族年金ヲ與ヘマスケレドモ、遺族年金ヲ貰ヒ得ル資格ノナイ者バカリノ際ニハ、其ノ遺族ニ對シマシテ一時金トシテ現行法デハ養老年金額ノ五年分ニ相當スル金額ヲ支給致シテ居ルノデアリマスガ、之ヲ陸上勞務者ト權衡ヲ取リマシテ、陸上勞務者ト同様ニ六年分ノ支給ニ改メタイ、斯様ニ改正案デハナツテ居ル次第デゴザイマス、ソレカラ其ノ次ニ最高制限デゴザイマスガ、是亦現行法ノ第三十五條デゴザイマス、現行法ニハ養老年金ノ最高制限ガアリマシテ、四十年以上勤メマシテモ、四十年勤メタ者ト同ジヤウニシテ年金額ノ最高ヲ押ヘル、即チ一年ノ年收ノ六箇月分ニ押ヘル、斯様ナ制度ニナツテ居リマスガ、是ハ曩ニ現行年金保險法ノ改正デ、陸上勞務者ニ對シテハ此ノ最高制限ヲ撤廢致シマシタノデ、船員ニ對シマシテモ同様ニ之ヲ撤廢シヨウ、斯ウ云フ風ニ改正セムトスル次第デゴザイマス、其ノ次ニ障害年金デゴザイマス、是ハ現行法デハ癱疾年金ト申シテ居リマスガ、癱疾年金ト云フ字句ハ年金支給者ニ取リマシテ、如何ニモ陰慘ナ感ジテ居ルノデ、名稱ヲ改メタラドウカト云フヤウナ見地カラ致シマシテ、陸上勞務者ト同様ニ之ヲ障害年金ト云フ風ニ名前ヲ改メムト致シマシタ次第デゴザイマス、此ノ支給條件デゴザイマスガ、

是ハ第四十條ニ關係致シマス、現行法
デハ障害年金ノ支給ヲ受ケルニ付キマ
シテハ、如何ナル場合デモ三年以上被
保險者デナケレバナラヌト云フ風ナ支
給條件ガゴザイマスガ、之ヲ改メマシ
テ、職務上ノ原因ニ基ク疾病、負傷等
ニ因ツテ發疾トナツタ場合ニハ、其ノ
被保險者期間ニ何等ノ制限ヲ設ケルコ
トナク、被保險者ニナリマシテ其ノ日
デモ、其ノ翌日デモ、其ノ原因ガ職務
上ノ原因デアリマスルナラバ、直チニ
障害年金ヲ支給スルヤウニ致シタイ、
是ガ改正案ノ内容デゴザイマス、職務
外ノ原因ニ基クモノニ付キマシテハ、
現行法ト同様何等改正ヲ加ヘナイコト
ニナツテ居リマス、ソレカラ支給額デ
ゴザイマスガ、是ハ第四十一條ニ關係
致シマス、現行法デハ職務上、職務外
ノ區別ナク、齊シク養老年金ト同ジヤ
ウニ一年ニ付テ平均給料ノ三分分ヲ支
給致シテ居リマスガ、之ニ改正ヲ加ヘ
マシテ、職務上ノ原因ニ基キマス障害ニ
對シマシテハ、其ノ障害ノ程度ニ應ジ
テ一年ニ付テ平均給料ノ五分分乃至八
月分ト云ツタヤウナ相當大幅ニ支給額
ヲ上ゲムトスルノデアリマスガ、是亦
陸上勞務者ニ對スル同様ノ條件、同
様ノ支給額ニ致サムトスルモノデアリ
マス、ソレカラ十五年以上被保險者タ
リシ場合ノ障害保險ノ加算デゴザイマ
スガ、是モ養老年金ト同様ニ現行法デ
ハ十五年以上ノ年増スル毎ニ百分ノ一
ヲ増スコトニナツテ居リマスガ、是モ
先程申上ゲマシタヤウニ、養老年金ト
同様ニ、十五年以上ノ年増スル毎ニ六
日分ヲ加算セムトスルノデアリマス、
ソレカラ最低保障額デゴザイマスガ、
是ハ第四十二條ノ二、ソレカラ第四十
二條ノ三ニ關聯ヲ有ツテ居ルノデゴザ

イマスガ、是亦先程養老年金ノ最低保
障額デ申上ゲマシタヤウニ、障害年金
ヲ受ケル者ガ比較的早ク死シタヤウナ
場合ニ、其ノ最低保障額ト云フ制度ヲ
設ケテ居ルノデゴザイマスガ、是ハ現
行法デハ養老年金ノ最低保障額ト同様
ニ五年分ニナツテ居リマスガ、之ヲ陸
上勞務者同様ニ六年分ノ最低保障額ニ
改正シタイ、斯様ニ致シタノデゴザイ
マス、ソレカラ障害年金モ現行法デハ
最高制限ガ平均給料ノ六箇月分ト云フ
コトニナツテ居ルノデゴザイマスガ、
之ニ改正ヲ加ヘマシテ、平均給料ノ十
二箇月分、即チ從來ノ年收ト同ジ額ノ
障害年金ハ受ケ得ルト、斯様ニ最高制限
ヲ引上ゲタイト存ジテ居ル次第デゴザ
イマス、ソレカラ其ノ次ニ障害手當金
デゴザイマスガ、是ハ現行法デハ廢疾
手當金ト申シテ居リマスノヲ、障害手
當金ト名前ヲ變ヘムトスルノデゴザ
マシテ、是ハ第四十條デゴザイマス、
現行法デハ是亦職務上及職務外ノ區別
ナク、三年以上被保險者デアルコトヲ
要件ト致シテ居リマスガ、改正案デハ
職務上ノ原因ニ基ク障害ニ對シマシテ
ハ、被保險者期間ニ何等ノ制限ヲ設ケ
ナイ、職務外ニ對シマシテハ現行法通
リ三年以上被保險者タルコトヲ要スル、
斯様ニ致シテ居ルノデアリマス、ソレ
カラ障害手當金ノ支給額デゴザイマス
是ハ第四十一條ノ二ニ規定ヲ設ケタノ
デアリマス、現行法デハ第四十一條ノ
末項ニ規定ガアリマスノヲ、條文ヲ改
メマシテ、第四十一條ノ二ニ障害手當
金ノ支給額ニ付テノ規定ヲ設ケタノデ
アリマシテ、職務上ノ原因ニ基ク障害
ニ對シマシテハ、平均給料ノ二分分乃
至二十五分、是ハ障害ノ程度ニ應ジ
マシテ階級ヲ設ケテ二分分、最高ノモ

ノハ二十五分ノ障害手當金ガ貰ヘ
ル、斯様ニ致シテ居ルノデゴザイマ
ス、ソレカラ職務外ノ原因ニ基ク障害
ニ付キマシテハ平均給料ノ十分分、是
ハ現行法デハ七分分ニナツテ居リマス
ガ、是亦陸上勞務者ト同様ニ十分分ニ
引上ゲタイ、斯様ニ致シテ居ル次第デ
ゴザイマス、此ノ職務外ノ原因ニ基ク
モノガ十分分ト云フコトニナリマシ
テ、職務上ノ原因ニ基クモノガ二分分
ト云ツタヤウナ低イ支給額ニナツテ居リ
マスケレドモ、此ノ職務上ノ事由ニ基
ク不具發疾ニ付テハ、輕イ程度ノ者ニ
對シテモ支給致シマスガ、職務外ノ原
因ニ基ク者ニ付キマシテハ、相當重イ
程度ノ障害デナケレバ、障害手當金ヲ
支給致シマセヌノデ、斯様ナ十月
分ト云ツタヤウナ、職務上ノ原因ニ基
ク二分分ヨリモ金額カラ申シマスルト
多イ者ガ出テ來マスガ、不具發疾ノ程
度ガ九分違フノデゴザイマス、其ノ次
ニ脫退手當金デアリマス、是ハ現行法
ノ四十六條、四十七條デゴザイマスガ、
現行法デハ脫退手當金ノ支給條件ガ、
三年以上十五年未満ノ被保險者ノミニ
對シテ脫退手當金ヲ支給シテ居リマス
ガ、今回之ニ少シク改正ヲ加ヘマシ
テ、改正案ノ第四十七條ノ三デゴザイ
マスガ、三年未満ノ者デモ六箇月以上
被保險者デアリマシタ者ガ死亡シタト
カ、或ハ徵用ノ解除デアルトカ、斯ウ
云ツタヤウナ特殊ノ場合ニハ、三年以
上被保險者デナクテモ、之ニ脫退手當
金ヲ支給スル、斯様ニ改正案デハナツ
テ居ルノデゴザイマス、ソレカラ脫退
手當金ノ支給額デゴザイマスガ、是ハ
現行法デハ第四十九條、改正案デハ第
四十七條ノ二及三デアリマス、現行法
デハ平均給料ノ一分分乃至二分分ヲ支

給シテ居リマスガ、之ヲ保險料ノ引上
ゲニ伴ヒマシテ當然脫退手當金ヲ引上
ゲマシテ、普通ノ脫退ノ場合ニハ平均
給料ノ三月乃至八月分、死亡脫退、
死亡シタコトニ因ツテ脫退スル場合ニ
於キマシテハ、是ノ金額ヲ引上ゲマシ
テ平均給料ノ五月乃至二十三分、各
被保險者ノ年限ニ應ジマシテ支給スル
コトニ致サウトシテ居ル次第デアリマ
ス、ソレカラ先程申上ゲマシタ死亡ト
カ徵用解除ト云フヤウナ特別ノ事由ニ
基イテ三年未満ノ中ニ脫退スル者ニ對
シマシテハ、平均給料ノ半月乃至二月
分ヲ脫退手當金トシテ支給シタイト云
フノデアリマス、ソレカラ其ノ次ニ遺
族年金ニ入ツテ參リマスガ、是ハ先程
御説明申上ゲマシタヤウニ、現行法デ
ハ遺族年金ノ制度ガゴザイマセヌデ、
僅カニ死亡手當金ノ制度ガアルダケデ
アリマスガ、今回新ニ之ヲ設ケムトス
ル次第デアリマス、關係條文ハ第五十
條、第五十條ノ二、ソレカラ遺族年金
ニ關聯致シマシテハ色々ノ規定ガゴザ
イマス、第五十條ノ三、第五十條ノ四、第
五十條ノ五、第五十條ノ六ト云ツタヤウ
ナ遺族年金創設ニ伴フ色々ノ事項ガ新
タニ加ツテ來ル譯デゴザイマス、遺族
年金ノ支給條件及支給額デゴザイマス
ガ、職務上ノ原因ニ基キマシテ死亡シ
タ者ニ對シマシテハ何等ノ支給條件ヲ
設ケルコトナク、被保險者タルニ至ツ
タ其ノ日デモ、職務上ノ原因ニ基イテ
死亡シタト云フヤウナ場合ニハ無條件
ニ遺族年金ヲ支給スル、ソレカラ職務
上ノ原因ニ基イテ不具發疾トナツテ障
害年金ヲ受ケテ居リマシタ者ガ、其ノ
者ガ死亡シタ場合ニ於キマシテハ其ノ
遺族ニ對シマシテ遺族年金ヲ支給スル、
斯ウ云フコトニ致シテ居リマス、支給

額ハ職務上ノ事由ニ基キ死亡シタ者ノ
遺族ニ對シテハ一年ニ付平均給料ノ
五月ヲ與ヘル、職務上ノ原因ニ基キ不
具發疾トナツテ障害年金ヲ受ケテ居リ
マス者ガ死亡シタ場合ノ遺族ニ對シマ
シテハ、二月半ヲ支給スルコトニ致シ
テ居リマス、ソレカラ職務外ノ原因ニ
基イテ死亡シタ場合ノ遺族デゴザイマ
スガ、職務外ノ原因ニ基イテ死亡シタ
場合ニハ、其ノ被保險者ガ十五年以上
ノ被保險者デナケレバ、ナラヌ、即チ養
老年金受給資格ニ到達シテ居ル者ガ、
職務以外ノ原因デ死亡シタ場合ニハ遺
族年金ヲ支給致シマスガ、然ラザ
ル限り遺族年金ノ支給ハナイ、斯ウ云
フコトニナリマス、其ノ支給額ハ養老
年金又ハ障害年金額ノ二分ノ一、丁度
恩給法ノ遺族扶助料ガ二分ノ一、デアル
ト同ジヤウニ、左様ナ意味合ニ基イテ
養老年金又ハ障害年金額ノ二分ノ一ヲ
遺族年金トシテ付與スル、此ノ支給期
間デアリマスガ、是ハ現行法ハ遺族年
金ガナイノデアリマスカラ、新タニ勅
令事項トシテ加ヘタ譯デゴザイマスガ、
陸上勞務者ノ厚生年金ト同様ニ新タニ
規定セムトシテ居ル次第デゴザイマス、
ソレカラ遺族ノ加給金デゴザイマス
ガ、是ハ第五十條ノ三デゴザイマス、
「遺族年金ノ支給ヲ受ケベキ遺族ノ範
圍ニ屬スル子アルトキハ其ノ子一人ニ
付平均報酬日額ノ十分分」ヲ支給シタ
イ、遺族年金ダケデハ多子家族デハ生
活ノ困難ヲ感ジマスノデ、其ノ多子家
族ノ生活ヲ保障スル意味ニ於キマシテ、
子女一人ニ付テ平均給料ノ十分分ノ遺
族加給金ト云フ制度ヲ設ケムトスル次
第デアリマス、是亦陸上勞務者ト同様
デゴザイマス、次ニ葬祭料デゴザイマ
ス、是ハ改正案ノ第五十條ノ七デゴザ

イマスガ、現行法デハ葬祭料ノ制度ハゴザイマセヌガ、今回新タニ設ケマシテ、被保險者タリシ者ガ死亡シタ場合ノ葬祭料トシテ給料ノ二分ヲ支給シヨウト、斯ウ云フコトニ致シテ居リマシテ、是亦陸上勞務者ト權衡ヲ取ツタ譯デゴザイマス、但シ支給額ハ一月分ダケ陸上勞務者ヨリ多クゴザイマス、其ノ次ニ死亡手當金デゴザイマスガ、是ハ先程來申上デマシタ通りノ廢止シマシテ遺族年金ニ致シマシタ、ソレカラ次ニ費用負擔ニ付テ申上デマス、最初ニ國庫ノ負擔デゴザイマスガ、平時危險ニ對スル、平時事故ニ對シマシテハ今回ノ改正案デモ現行法通り何等ノ變更ヲ加ヘテ居リマセヌ、保險料率デゴザイマスガ、是ハ現行法デハ普通船員ガ百圓ニ付テ十圓、高級船舶船員ニ關シマシテハ百圓ニ付テ六圓四十錢、斯樣ニナツテ居リマスガ、改正案デハ是ハ保險料率ヲ計算致シマセヌトハツキリ申上デ兼ヘル譯デゴザイマスケレドモ、大體今ノ所デハ、是ハ法律ニハ出テ參リマセヌガ、大體今ノ計算デハ改正案ニ於キマス、百圓ニ付テ十七圓トナル譯デアリマス、是ハ大體動カナイト思ヒマス、普通船員モ高級船舶船員モ一並ニ百圓ニ付テ十七圓、サウシテ只今ノ豫定デハ船主十圓、船員七圓ノ負擔ニ致ス豫定デゴザイマス、ソレカラ次ニ入營、應召中ノ被保險者ニ對シマシテハ保險料ヲ免除スル、是ハ改正案ノ第六十條ノ二デゴザイマス、徵集又ハ召集セラレタル船員ニ對シマシテハ保險料ヲ免除スル、斯樣ナ條文ヲ新設セムトシテ居ル次第デゴザイマス、ソレカラ最後ニ戰時特例デゴザイマスガ、是ハ改正案ノ第七十三條、第七十四條、第七十五條、第七十六條等總テ新ラシ

イ規定デゴザイマス、現行法デハ昭和十八年ノ法律改正、即チ大東亞戰爭勃發後、昭和十八年ニ船員優遇ノ意味ニ於キマシテ少シク改正ガ加ヘラレマシテ、戰時危險區域ヲ航行スル船舶ニ乗組ン場合ニハ、其ノ間一月ニ付テ三分ノ一ノ日數、十日分ダケヲ年金加算スル制度ガ昭和十八年ノ法律改正設ケラレタルデアリマス、是ハ現行法ノ第二十二條ノ二デゴザイマスガ、之ヲ今回廢止致シマシテ、新タニ第七十三條以下ノ條文ヲ設ケタルデアリマス、今日ノ情況ニ鑑ミマシテ船員諸君ノ勞苦ヲ思フ時、一月ニ付テ僅カ十日ノ年限加算デハ餘リニ氣ノ毒デ、何トシテモ實情ニ副ヒマセヌデ、之ニ改正ヲ加ヘマシテ原則トシテ一月ニ付テ二月以內ヲ加算スル、此ノ二月以內ト申シマスノハ、日本海トカ勃海トカ比較的危險ノ少イ所ニハ、只今ノ豫定デハ大體一月位ト云フヤウナ氣持デ居リマスガ、太平洋印度洋等ニ於テハ總テ二月ノ豫定デハ加算スル積リデアリマス、尙戰爭危險ニ依ツテ發疾トナツタ者、或ハ死亡シタヤウナ特殊ノモノニ付テハ一月ニ付テ三月以內ヲ加算スルノデアリマス、從ツテ改正案デハ一年被保險者デアレバ原則トシテ三年ニナル、特殊ノモノニ對シテハ四年ニナル譯デアリマス、一月ニ付テ二月ヲ加算スル、即チ一月ガ三月ニナル、特殊ノ者ハ一月ガ四月ニナル、斯ウ云フコトデアリマス、之ニ要スル費用ハ此ノ年限加算ヲ認メマス、非常ニ多額ノ費用ヲ要スルノデアリマスガ、之ニ依ツテ増加スル戰爭危險ノ費用ハ全部國庫デ負擔スルコトニナツテ居リマス、ソレカラ改正案ノ第三ニアリマス戰爭危險ニ因リ生ジタル事故ニ對シテハ全部國庫

負擔トスル、是ハ年限加算ノ外ニ、船舶ニ乗組ミ中戰爭危險又ハ之ニ準スベキ危險ニ遭遇シテ死亡シ若クハ不具發疾ニナツタ者ニ對スル各種ノ支給金、是ハ全部國庫デ負擔スル、サウシテ船員ノ士氣ヲ昂揚ショウ、斯ウ云フ考デ第七十四條以下ノ規定ガ設ケラレタルノデゴザイマス、更ニ大東亞戰爭勃發後死亡又ハ不具發疾ニナツタ者デ、本法施行ノ日迄ニ左様ナ狀態ニ相成リマシタ者ニ對シテモ、齊シク改正案ノ施行サレマシタ後ニ於テ、總テ戰時危險ニ依ルモノニ對シテハ國庫デ負擔スル建前デアリマスカラ、改正案施行ノ日前ニ左様ナ狀態ニナリマシタ者ニモ齊シク國庫デ負擔シテ遺族年金或ハ障害年金ヲ支給スル、斯ウ云フ案デアリマシテ、是ハ改正案ノ第七十四條及第七十五條、第七十六條等ニソレノ規定シテアル次第デゴザイマス、大體此ノ新舊制度比較對照表ヲ土臺トシテ御說明ハ終ツタ譯デアリマスガ、只今御說明ノ中ニ出マシタ關係條文ノ外ニチヨイチヨイ條文ヲ改正致シテ居リマスガ、是ハ概ネ字句ノ整理或ハ多少事務ノ簡素化ト云フヤウナ意味カラ致シテ、多少ノ改正ヲ加ヘテ居リマス、此ノ點ニ付キマシテハ餘リ時間ヲ要シマスノデ說明ヲ省略致シマシテ、御質問ガゴザイマスレバ御答ヘ致シタイト思ヒマス

○田邊治通君 是ハ私ハ能ク研究致シテ居リマセヌガ、是ハ特別會計デスカ、ドウナツテ居ルノデスカ

○政府委員(伊藤謹二君) 特別會計デゴザイマス、厚生保險特別會計ト云フ中ニ船員保險勘定ト云フノガアリマシテ其ノ中ニ入ツテ居ル譯デス

○田邊治通君 ソコデ序ニ御説明ヲ願ヒタイノデスガ、保險計算ノ基礎デス

ネ、戰時ノ加算ノ負擔ト云フモノニ付テハ一切國庫デ負擔スルノデアリマスガ、其ノ以外ノ保險給付ノ増加ト云ヒマスガ、サウ云フモノニ付テハ保險料十圓ヲ十七圓ニシテ七圓ノ保險料ノ増加ニ依ツテ大體賄フト云フ御趣旨ヲラシイデスガ、凡ソドンナ計算ニナリマスカ、素人ノ頭ニ入ルヤウニ御説明ガ願ヘレバ結構ト存ジマス

○政府委員(伊藤謹二君) ソレハ保險給付ノ各内容別デ違ツテ來ル譯デゴザイマス

○田邊治通君 マダ期限ニ達シテ居ナイモノモアリマセウカラ、ハツキリシタコトハ伺ヘナクテモ大體ノ御見込ヲ一ツ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(伊藤謹二君) 大體各種ノ事故率等ニ依ツテ計算ラシテ、被保險者一人當リノ費用ガ幾ラニナルカト云フコトヲ出ス譯デゴザイマスガ、是ハ後程表ヲ作ツテ御覽ニ入レマセウカ

○田邊治通君 宜シウゴザイマス、尙モウツ戰時危險ノ負擔ハ政府ガ持ツト云フコトハ勿論結構ト思ヒマスガ、一ツニハ段々戰局ガ激烈トナツテ來テ、其ノ爲ニ避難ノ場合ガ多クナルト、普通ノ保險計算ノ基礎デハ、ソレニ對スル療養等ノ保險給付ノ計算ガ出來ナイ、サウ云フコトデサウ云フ危險ヲ政府ニ任シタカ、又ハ政府ガ國家ノ事業ナリトシテヤラウト云フノデアリマスカ

○政府委員(伊藤謹二君) 船員ノ援護ト云フコトニ付テ、國家的ニ何トカシテヤラナケレバナラヌト云フ精神カラ出テ居ル譯デアリマスガ、之ヲ假ニ保險料カラ取りマスト相當多額ノ保險料デナイトヤツテ行ケナイモノヲ、今回ノ改正案ハ平時事故ヲ基礎トシタモノ

デモ十圓ガ十七圓ニナリ、其ノ上ニ戰時危險ノ到底計算ノ出來ナイモノヲ加ヘマス、莫大ナモノニナル、ソレデハ到底船主並ニ船員ノ負擔ガ堪ヘ切レナイカラ、是ハ飽ク迄國家デ持ツテヤラウト云フコトデアリマス、假ニ今度之ニ依ツテドノ位國家ノ負擔ガ増スカト云フコトデアリマスガ、是ハ御承知ノ通り戰爭危險ガ年々非常ニ違ヒマスシ大東亞戰爭ガ今後何年續クカ分リマセヌノデ、其ノ計算ト云フコトハ到底出來ナイ譯デアリマスケレドモ、假ニ戰爭危險ガ昭和十八年中ニ起ツタト同程度ノ事故ガ今後繼續シ、假ニ昭和二十年カラ三年繼續スルトドノ位ノ國庫負擔ニナルカト云フ計算ヲ御參考迄ニ申上デマス、其ノ増加スル部分ガ四億一千三百七十五萬五千圓ト云フ數字ガ出マシタ、ソレカラ大東亞戰爭勃發後本改正ハ大體今年ノ四月一日カラ施行シタイ氣持デアリマスガ、今年ノ三月末日迄ニ死亡シタモノ、是ハ現在死亡シツ、アル人モアルノデアリマスカラ、マダ正確ナ數字ヲ申上デ兼ヘル譯デアリマス、大體昭和十八年ノ計算ヲ基礎ニ致シマシテ是等ニ對スル資金ガどれ位ニナルカト云フコトヲ假ニ計算シテ見ルト、一億二千萬圓、今後昭和二十年カラ大東亞戰爭ガ昭和二十二年度三年間假ニ續クモノトシテ、昭和十八年ニ起ツタ事故ト同ジャウナ事故ガ續クモノト假ニ計算致シマス、之ニ要スル額ガ一億六千五百萬圓、斯ウ云フコトニナリマシテ、此ノ戰時特例ニ依ツテ國庫負擔ガ増加スル金額ガ大體六億九千九百萬圓、約七億圓ト云フ計算ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ勿論増加スルダラウト思フノデアリマス、第一昭和十八年ヲ計算ノ基礎ニ致シテ

居リマスケレドモ、昭和十九年ノ年度
半バ頃迄ノ狀況ヲ見マスルト、昭和十
八年ヨリモ遙カニ事故ガ殖エテ居リマ
スノデ、昭和十九年中ノ事故ト云フモ
ノハ相當ノ數ニテラウト思フノデアリ
マス、ソレヲ基礎ニ計算致シマスルト
モット是ハ殖エラウト思ヒマス、
大體只今申上ゲタヤウナ六億九千九百
萬圓、約七億圓ト云フ數字ガ出タ譯デ
アリマスガ、是ハ大體七十年乃至八十
年ノ間ニ出マスモノデ、一時ニ出ル譯
デハゴザイマセヌデ、大體一箇年平均
致シマス、約八百五十萬圓ト云フ數
字ニナルノデアリマス

○田邊治通君 是ハ何デスカ、豫算外
國庫ノ契約拂ツテ行クノデアリマス
カ、ドウ云フ豫算ヲ立テテアリマス
カ、
○政府委員(伊藤謙二君) 是ハ此ノ法
律案ヲ御協賛願ヒマシテ御公布ニナレ
バ、法律上ノ義務トシテ當然出ル譯デ
アリマス

○村上泰一君 今ノ田邊委員ノ御質問
ニモ關聯スルト思ヒマスガ、實ハ資料
ヲ追加シテ御願ヒタイト存ジマス、
ソレハ船員保險ガ實質的ニ一ツノ特別
會計ヲ構成シテ居ルヤウニ思ヒマス、
此ノ船員保險會計、經濟ト云ヒマスガ、
既往ニ於テドウ云フヤウナ收入支出デ
アツタカ、ソレハ細カク言ヒマスレバ
切リガアリマセヌガ、大凡收入ハ斯ウ
云フ項目デ斯ウ云フ金額ガ上ツテ居ル
支出ハ斯ウ云フ項目デ斯ウ云フ金額デ
アルト云フ綾筋ダケデ結構デアリマス、
ソレガ今度ノ法律ノ改正ニ依リマシテ
若干變更ヲ受ケルコトニナリマス、收入
ノ面ニ於テモ、支出ノ面ニ於テモ……、
ソコデ結局船員保險ノ特別會計ノ決算
ト豫算、既往ノ決算、ソレカラ昭和二
十年度ノ豫算ト云フコトニナルカト思
ヒマスガ、之ヲ調書ヲ以テ御示ヲ願

ヘレバ有難イト思ヒマス、ソレカラ矢
張り資料ノ追加デアリマスガ、此ノ法
律ノ改正ニ伴ヒマシテ之ニ附隨スル勅
令、即チ船員保險法施行令デアリマス
カ、之ニ改定ガ加ヘラレル筈デアリマ
ス、ソレハ從前ノ規定ヲ變更スルモノ
モアリマセウシ、又全ク新シイ規定ヲ
設ケルモノモアリマセウ、何レニシマシ
テモ、此ノ勅令改正ニ付キマシテ當局
ニ御腹案ガアツテ、ソレヲ私共ニ御示
ニナル用意ガアリマスルナラバ未定稿
デモ宜シイ、又條文ノ形デナシニ、實質
ニ付キマシテ斯ウ云フ趣旨ノ變更ヲ加
ヘル、斯ウ云フ趣旨ノ新規定ヲ設ケル
ト云フコトデ結構デアリマスルカラ、
出來マスレバソレモ御示ヲ願ヒタイト
思ヒマス、是ダケ資料ノ追加トシテ申
上ゲテ置キマス

○委員長(伯耆三荒芳徳君) 後ア宜シ
イデスネ

○田邊治通君 エ、後ア宜シウゴザイ
マス

○男爵神山嘉瑞君 チョット御質問申
上ゲタイデスガ、此ノ戰時特別ニ出テ
居リマス、七十三條ノ勅令ヲ以テ指定
スル區域ヲ主トシテ航行スル船舶ト云
フノゴザイマスガ、先程モチョット
御説明デ大體分ツテ居ルノデゴザイマ
スガ、區域ヲ指定スル、無論勅令ニ
是ハ指定スルノデアリマスガ、基準
ト云ヒマスガ、標準ハ何ニ依ツテ爲サ
ルカト云フコトガ第一デアリマス、ソ
レカラ其ノ次ニ併セテ申上ゲマスガ、
療養給付ノコトニ付テチョット御尋シ
タイノデアリマス、御承知ノ通り此ノ
保險ト云フモノノ所謂被保險者ト云フ
者ハ船員諸氏ニ限ラレテ居ルヤウデア
リマスガ、是ハ私ハマダ素人デ、質疑
モ或ハ要領ヲ得ナイカモ存ジマセヌ
ガ、大體長途ノ航海ニ出ル船員諸氏ニ

シテ危險區域モ通ラレマセウシ、長イ
航海モセラレ、色々ナ關係カラ斯ウ云
フ法案ノ改正ヲ見マシテ、色々ナ物質
的ナ恩惠ニ浴サセルト云フコトハ誠ニ
結構ナンデアリマスガ、船員ソレ自體
ノ福祉ト云フヨリモ、ソレヲ延イテ考
ヘマスルコトハ、サウ云ツタ方々ノ所
謂家族ノ健康ト云フコトダラウト思ヒ
マス、矢張り職域奉公モ斯ウ云ツタ貴
重ナ人達ノ活動ノ原動力ニナルノハ、
矢張り家族ノ保險給付ダラウト思ヒマ
ス、サウ云ツタ療養ト云ヒマスガ、醫療
給付ト云フコトガ、今度ノ法案ニハ諷
ツテナイノデアリマスガ、從來トモ斯
ウ云ツタ船員關係法案ノ家族ノ療養給
付ト云フコトモ御アリダラウト思ヒマ
ス、其ノ點ヲ一ツ御伺ヒシタイト思ヒ
マス、ソレカラ尙此ノ保險醫ノ選定デ
アリマスガ、保險醫ト云フモノハド
ウ云フ風ニシテ選定シテ居ラレカ、
色々私モ聞イテ居ル話モアリマスガ、
或ハ差障リガゴザイマスレバ速記ヲ
中止サレテ結構デアリマスガ、御説明
ニ依リマシテ又御尋ネ致シマスガ、大
體以上ノ點ニ付キマシテ御説明願ヒタ
イト思ヒマス

○政府委員(伊藤謙二君) 最初ニ戰時
特別ノ勅令ヲ以テ指定スル區域ト云フ
ノハ大體ドンナ所カト云フ御質問デゴ
ザイマスガ、是ハマダ關係省ト、大體
ノ話ハ進マツ、アルノデアリマスガ、
確定致シタ譯デゴザイマセヌデ、ハ
ツキリシタ確答トシテ御取ニナラヌヤ
ウニ御聽取リ願ヒタイト思ヒマスガ、
大體只今ノ處デハ瀬戸内海ハ全然是ハ
除外致シマス、瀬戸内海ヲ除キマスル
其ノ他ノ區域ハ總テ之ニ入ルノデアリ
マスガ、但シ先程ノ説明デモ觸レタノ
デアリマスガ、階級ヲ設ケマシテ、太
平洋トカ印度洋或ハ日本海、勃海ト云

ツタヤウナ危險ノ程度ニ應ジマシテ加
算ノ仕方ヲ變ヘル譯デゴザイマス、大
體除外サレルトハ瀬戸内海、其ノ他ハ
總テ入ルダラウト思ヒマス、ソレカラ
第二ノ家族ノ療養ノ給付ニ付テ何等規
定ガナイガ、ドウカ、斯ウ云フ御質問デ
ゴザイマスガ、是ハ實ハ私共モ相當此ノ
點ニ付テハ研究ヲ致シタ、或ハ討論モ
致シタノデアリマスガ、御承知ノヤウ
ニ陸上勞務者ニ對シマシテハ、健康保
險ニ於キマシテ家族ノ療養ノ給付ガア
ルノデアリマス、是ハ最初ハナクテ、後
ニナツテ家族ノ療養ノ給付ガ設ケラレ
タノデアリマスガ、其ノ家族ノ療養ノ
給付ノ、健康保險ニ於ケル實施ノ成績
ヲ見マスルト云フト、必ズシモ當初豫
想シタ程ウマク參ツテナイノデゴザイ
マシテ、家族ガ餘リ之ヲ利用シナイ、
ノミナラズ御承知ノヤウニ國民皆保險
ト云フ大キナ標榜ヲ致シマシテ、國民
健康保險組合ヲ全國ニ普及致シテ
居ルノデアリマスガ、此ノ國民健康保
險組合法ノ方ニ家族ノ方モ被保險者ト
シテ入ツテ居リマシテ、其ノ間健康保
險ノ被保險者デハナイガ、家族ノ療
養ノ給付ヲ受ケル、一般國民健康保險
ノ被保險者デアツテ重複シテ事務的ニ
モ煩瑣デアリマスシ、健康保險ノ保險
給付ヲ棄權スルト云ツタヤウナ方々モ
アルノデアリマス、實ハ健康保險ニ於
ケル家族ノ療養給付ハ入レテ見タケレ
ドモ、ドウモ成績ガ餘リ芳シクナイ、
是ハ寧ロ矢張り家族ノ療養給付ハ健康
保險カラ外シテ、總テ家族ニ付テハ國
民健康保險組合ノ方デ統一シテヤツタ
ラ宜イガト云フ聲ガ相當アルノデアリ
マス、サウ云フヤウナ情勢デゴザイマ
スノデ、船員保險ノ改正ニ際シマシテ
モ、茲ニ新タニ家族ノ療養給付ヲ加
マシテ、後ニナツテ又國民健康保險カ

ラ外スト云ツタヤウナコトニナルコト
モ如何カト思ヒマスノデ、實ハ家族ノ
療養給付ハ之ニ入レナイコトニ致シタ
ノデアリマス、第三點ノ保險醫ノ選定
デゴザイマスガ、是ハ御承知ノ通り
ノデアリマスガ、地方長官ガ道府縣醫
師會ノ意見ヲ聽イテ、保險醫ヲ指定ス
ルコトニナツテ居リマス、法律上ノ立
前ハ地方長官ガ指定スレバ、一方のナ
行爲デ保險醫ニナル譯デゴザイマスガ、
實際ノ取扱ト致シマシテハ保險醫タル
ベキ人ニ打合セ致シマシテ、保險醫タル
ベキ人カラ、保險醫タラムトスル希
望ヲ申出ラシテ貰ツテ、道府縣醫師會
ノ意見ヲ聽イテ地方長官ガ指定スル、
斯様ナコトニナツテ居リマス

○男爵神山嘉瑞君 今ノ御説明デ能ク
分ツタノデアリマスガ、保險醫ノ選定
ト云フコトニ付テ地方長官ノ御指定ト
云フコトガアリマスガ、是ハ承知致シ
テ居リマスガ、私ノ聞ク範圍ニ於キマ
シテ、矢張り此ノ内地外地ト云フ區域
的ノ地方的ノ例ニ依ツテ、何ト申シマ
スカ、保險醫ニナル方ノ指定ト申シマ
スカ、サウ云ツタ技術或ハ人柄ト申シ
マスカ、非常ニ區々デアリマス、從ツ
テ實際出先ト申シマスガ、航海先ニ於
ケルト云フヤウナ場合ニ、非常ニ不都
合ヲ生ズル場合ガアルト云フコトハ、
極端ニ言ヘバ不潔切アルト云フコトハ、
私ノ事業デナシ、矢張り官ノ指定ニ依
リテナツテ居ルト云フ手前モアルノデ
アリマセウガ、往々サウフ話ヲ聞ク
ノデアリマスガ、其ノ點ハ矢張り選定
ニ於テ十分ノ御注意ヲ以テ交渉セラレ
ルコトガ必要ダト思フノデアリマス、
折角斯ウシタ福祉ノ恩惠ニ浴サシメル
ベク改正シタノデアリマスガ、サウ云
ツタ根本ニ於テ今迄通りデアレバ、何

ラ外スト云ツタヤウナコトニナルコト
モ如何カト思ヒマスノデ、實ハ家族ノ
療養給付ハ之ニ入レナイコトニ致シタ
ノデアリマス、第三點ノ保險醫ノ選定
デゴザイマスガ、是ハ御承知ノ通り
ノデアリマスガ、地方長官ガ道府縣醫
師會ノ意見ヲ聽イテ、保險醫ヲ指定ス
ルコトニナツテ居リマス、法律上ノ立
前ハ地方長官ガ指定スレバ、一方のナ
行爲デ保險醫ニナル譯デゴザイマスガ、
實際ノ取扱ト致シマシテハ保險醫タル
ベキ人ニ打合セ致シマシテ、保險醫タル
ベキ人カラ、保險醫タラムトスル希
望ヲ申出ラシテ貰ツテ、道府縣醫師會
ノ意見ヲ聽イテ地方長官ガ指定スル、
斯様ナコトニナツテ居リマス

等價值ハナイト思ヒマス、從ツテ其ノ點ヲ十分マア私ノ希望ト致シマシテハ、御選定ニ注意願ヒタイト思ヒマス、色シテ置キマセウ、ソレカラ尙附加ヘテ申上デマスガ、十五條ニ所謂國或ハ北海道ト云フノガ出テ居リマシテ、此ノ條文カラ考ヘテ參リマスト、從來國有鐵道ニアリマス關金連絡船トカ、函館青森間ノ青函間ノ乘員デゴザイマスネ、ア、云フ船員ノ方ハ、今度ノ此ノ被保險者タルベキ船員ノ方トノ關係ハドウナリマスカ

○政府委員(伊藤謹二君) 最初ニ御述ニナリマシタ保險醫ノ選定ニ付キマシテハ、仰セノ御趣旨ニ從ヒマシテ今後十分注意シテ參リマス、只今御話ニナリマシタ鐵道關係ノ連絡船ノ乘員ノ問題デゴザイマスガ、是等ノ人々ニ對スル特別ノ扱ヒヲスル爲ニ第十五條ノ規定ガアル次第デゴザイマシテ、是等ノ國有鐵道ノ連絡船ノ乘員ニ付キマシテハ共濟組合ガゴザイマシテ、鐵道共濟組合ノ組合員トシテ各種ノ保險給付ヲ受ケテ居ルノデアリマス、但シ船員保險ノ被保險者デハアルノデアリマシテ、共濟組合ノ組合員ガ今度ハ他ノ船舶ニ乗込シタト云フ場合ニハ共濟組合員タリシ期間モ矢張り被保險者タリシ期間デゴザイマスカラ、年金ノ加算ニハ入レマス、交互通算スルコトニ致シテヤツテ居ルノデアリマス

○子爵大久保政尚君 一、二點チヨツト御伺シタイノデゴザイマスガ、第一ニ保險料ノ負擔デゴザイマスガ、從來ハ船主ガ半分、船員ガ半分、即チ保險料ヲ船主ト船員ガ折半デ負擔シテ居ッタヤウデアリマスガ、昭和十八年ノ十月以降カラ船主ハ保險料ノ三分ノ二、

船員ガ三分ノ一ト記憶シテ居リマスガ、是ハ全ク船員ノ優待ノ御趣旨ト存ジマスガ、今回船員ヲ待遇官吏ト爲サツタト存ジマスガ、此ノ船員ガ性質ハ船舶運賃會ノ所屬ニナルノデハナイカト思フノデアリマス、此ノ場合ニ保險料ノ一部ヲ船舶運賃會ノ負擔ト爲サレルヤウナ考ガナイデゴザイマセウカ、先ヅ此ノ點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(伊藤謹二君) 此ノ法案ハ總テ船舶所有者ト云フ字句出テ居ルノデアリマスガ、船舶所有者ガ表面ニ出テ參リマスガ、是ハ現行法ノ第十條ニ「本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者トアルハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人、船舶賃借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人トス、斯ウ云フ條文ガゴザイマシテ、此ノ運賃會ヲ船舶借入人トシテ現在デモ扱ツテ居ルノデアリマス、運賃會ガ船舶所有者トシテ、船主トシテノ保險料ノ半分ヲ現在デモ負擔シテ居ルノデアリマシテ、今後ハ名實共ニ負擔スルコトニナルト思フノデアリマス、是ハ船舶運賃會以外ニ自營船ノ船主モゴザイマスノデ、今後情勢ノ變化モアリマセウガ、船舶所有者ノ字句ハ飽迄變更ヲ加ヘナイ意向デゴザイマス

○村上泰一君 私前同海員ニ關スル一般ノ説明ヲ當局ノ方ニ御願シテ居リマシタノデゴザイマスガ、ソレハドウ云フ機會ニ承ルコトニナリマスカ、委員長ノ御裁量デ然レバ御取計ラヒテ願ヒタイト思ヒマス、尙其ノ説明ノ際ニハ同委員ノ内田君ガソレヲ聽キタイト云フ希望ヲ持ツテ居リマシテ、内田君ハ別ノ委員會ニ出席シテ居ラレマスガ、連絡ヲトリマシテ内田君ガ御聽キニナルコトノ出來ル時期ニ今ノ船員ニ

付テノ説明ヲ戴クト云フコトニナレバ一層便宜ダト思ヒマス、少シ無理カモ知レマセウガ……

○委員長(伯耆三荒孝德君) 只今政府委員ノ方カラ用意ガ出來テ居リマスノデ、御説明申上デテ差支ナイト云フコトデゴザイマス、從ヒマシテ内田委員ノ所ニチヨツト連絡ヲトツテ見マス、若シ來ラレマシタナラバ其ノ機會ニ致シマス

○大橋八郎君 質問シテ宜シウゴザイマス

○委員長(伯耆三荒孝德君) 宜シウゴザイマス

○大橋八郎君 實ハ遲レテ來テ私ノ居ナイ間ニ御説明ガアツタカモ知レマセウケレドモ、御説明ガアツタナラバ、サウ仰シヤツテ戴ケバ改メテ御答辨ハ要リマセウ、從來ノ規定ニ依リマス、官吏ハ船員保險法ノ適用ヲ受ケナイコトニナツテ居リマスガ、今度ハドウ云フコトニナリマスカ、總テノ船員ガ官吏若クハ準官吏ト云ヒマスカ、サウ云フモノニナルノデアリマスカ、其ノ人ガ無論適用ヲ受ケルヤウニ御取計ラヒニナルト思ヒマスガ、從來船員デナカッタ官吏ト云ヒマスカ、本當ノ官廳船ニ乗組ンデ居ル官吏、適用ヲ受ケナカッタ官吏ト云フ者ハドウナルノデスカ

○政府委員(伊藤謹二君) 先程チヨツト御説明申上デタノデアリマスガ、官吏又ハ待遇官吏ハ現行法デ被保險者カラ省イテ居リマス、但シ「官吏又ハ待遇官吏(俸給給料ヲ受ケザル者)ヲ除ク」トアリマシテ、國庫カラ俸給、給料ヲ受ケル官吏ハ被保險者デナイケレドモ、國庫カラ受ケナイ者ニ對シテハ被保險者トスルコト云フコトニナツテ居リマスガ、是ハ此ノ改正案デモ同様デ

ゴザイマシテ、今回全部待遇官吏ニナリマスケレドモ、俸給ハ運賃會カラ支給サレマスルシ、從ツテ又恩給法ノ適用モゴザイマセウノデ、本法ニ依ル年金ノ恩典ニ浴サセルヤウニ致シタイト思ヒマス、是ハ全部被保險者ニ看做スノデアリマス、ソレカラ純然タル官吏デゴザイマスガ、之ニ付キマシテハ、第十五條ニ「國、東京都、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ使用セラルル者」ト、斯ウ云フコトニ「爲スコトヲ得」ト、斯ウ云フコトニ改正案ガナツテ居リマスガ、其ノ勅令ヲ以テ純然タル官吏又ハ待遇官吏、是ハ被保險者カラ除外スル、恩給法ノ適用ヲ受ケル者ハ除外スル、斯ウ云フコトデアリマス

○大橋八郎君 之ヲ除外サレル理由ハドウ點ニアルノデスカ、恩給ヲ受ケテ居ルト云フ單純ナル理由デアリマセウカ、其ノ外ニ何カ理由ガアリマスカ

○政府委員(伊藤謹二君) 大體國家ノ官吏トシテ恩給ノ點モアルシ、サウ云フ風ナコトカラ來タノデゴザイマス

○大橋八郎君 此ノ船員保險ニ依ツテ受クベキ給付ノ程度ト云ヒマスガ、範圍單純ニ恩給ヲ受ケテ居ルト云フコトダケデ、役人ハ全部除外シテシマフト云フコトハ少シ單純過ギルノデヤナイカト思ヒマスガ、サウ云フ點ニ付テハドウ云フ御考慮ガゴザイマスカ

○政府委員(伊藤謹二君) 恩給法ニ依リ恩給ハ、船員保險ニ於ケル給付ヨリモ遙カニ良イノデアリマスガ、遙カニト云フト語弊ガアルカモ知レマセウガ、相當ニ船員保險ノ給付ヨリモ宜シウゴザイマス、左様ナ國家ノ官吏若クハ待遇官吏、殊ニ社會保險ト云ツタヤウナ立場カラ見テ、相當高等官トカ、ソレ等ニ相當スル人々ニ對シマシテハ、社會保險ノ範圍カラ除外スル意味カラ申シマシテモ、船員保險ノ被保險者ニスル必要ガナイノデヤナイカト斯様ニ考ヘテ居リマス

○大橋八郎君 成ル程養老年金ノ意味ノ給付ニ付キマシテハ、或ハ御説ノ通り恩給ノ方ガ宜イカモ知レマセウ、年金ノ點デカラ較ベマス……併シソレ以外ニ療養ナリ傷病手當金ト云フヤウナ種類ノモノガ恩給ノ方ニハナイノデヤナイカト思ヒマスガ、全部ヲ突込シテ考ヘマス、必ズシモ恩給法ノ給付ノ方ガ船員保險ニ依ル給付ヨリモ宜イト斷定スルコトハ無理ナノデヤナイカト感ズルノデアリマス、殊ニ私ノ記憶シテ居ル範圍内デハ、例ハ鐵道ノ共濟組合ノ如キハ官吏ト雖モ、矢張り強制ノニデハナイカモ知ラヌガ、少クトモ任意ノニハ入レタヤウニ思ヒマス、今日ハドウダカ知リマセウガ……

○政府委員(伊藤謹二君) 年金給付ニ付キマシテハ、官吏ニ付テハ恩給ガゴザイマスシ、ソレカラ只今御話ニナリマシタ療養ノ給付デアリマス、其ノ他ノ短期給付デアリマスガ、是ハ御承知ノヤウニ、官業共濟組合デアリマストカ、或ハ政府職員共濟組合ト云ツタヤウナ方面サウ云ツタ給付ガ行ハレマスルガ、船員保險ト重複支給ト云フコトニナルノデヤナイカト思フノデアリマス、尙先程言葉ガ足りマセヌデシタガ、鐵道省ノ連絡船ニ乗ツテ居リマスヤウナ人達ハ被保險者デアアルノデアリマス、但シ共濟組合ノ組合員タル間ハ保險料モ徴收シナケレバ、船員保險ニ依ル保險金モヤラナイ、被保險者タ

ル期間ニハ加算シテ被保險者ニシテ置
ク、サウ云フ人達ガ他ノ船舶ニ轉勤ラ
致シテ運賃會ノ所屬ノ船舶ニ乗組ムト
云フヤウナコトニナリマスレバ、直チ
ニ純然タル被保險者ニナルノデアリマ
ス
○大橋八郎君 例「バ」トロール」船ニ
乗ツテ居ル船員ニハアリマスカ
○政府委員(伊藤謹二君) 「トロール」
船ニ乗ツテ居リマス船員ハ……、是ハ
國家ノ所有ノ御話デアリマスカ
○大橋八郎君 官吏トシテ……
○政府委員(伊藤謹二君) 官吏トシテ
入ツテ居リマスル者ニ付テハ是ハ被保
險者ニナツテ居リマセヌ、官吏以外ノ
雇傭人ト云ツタヤウナ者デアリマスレ
バ、船員保險ノ被保險者ニナツテ居リ
マス

○大橋八郎君 ソレナラバ分リマス、
只今國ノ船員ノ場合ニハ共済組合ガア
ルカラト云フ御話デアリマスカラ、マ
ア此ノ點ハ是デ止メマス、ソレカラ今
一ツ伺ヒタイノハ、今回ノ改正ハ第八
章ノ戰時特例ト云フノハ、是ハ無論戰
争中ダケノ戰時規定カト思ヒマス、其
ノ外ノ點ハ全部恒久ノ立法トシテ戰
争ガ濟ンデモ矢張り是ダケノ給付ハヤ
ルト云フコトニナルト思ヒマスガ……
○政府委員(伊藤謹二君) 其ノ通りデ
ゴザイマス

○大橋八郎君 先程此ノ内容ニ付テ色
色説明ヲ伺ヒマシタ所ニ依リマス、
今回ハ非常ニ給付ノ内容ガ良クナリマ
シテ、一般ノ陸上勤務者ト同等、若ク
ハ中ニハソレヨリモ以上モアルヤウニ
見受けラレルノデアリマス、非常ニ結
構ナコトト思ヒマス、唯實ハソレヲ承
ツテ甚ダ意外ニ感ジタコトハ、今迄ノ
現在ノ規定デ陸上勤務者ヨリモ現行ノ
給付内容ガ非常ニ惡イノデアリマス、此

ノ點ハ實ハ甚ダ迂闊デ、今度初メテ之
ヲ拜見シテ非常ニ驚イタヤウナ次第デ
アリマス、是ガ同ジ厚生省ノ中デ、而
モ同ジ局ノ中デ取扱ツテ居ラレル陸上
労働保險ト海上ノ労働保險トノ間ニ、
ドウシテ斯様ニ今迄大キナ差ガ生ジテ
居ルノカト云フ點ニ付テ少シ不思議ニ
感ジタノデアリマス、是ハ何カ海員ニ
付テハ船主ノ方デ保險料ノ負擔等ニ付
テ今迄難色ガアツタ爲ニ是ダケ保護ノ
内容ガ通レテ居ルノカ、ソレトモ船員
自身ノ方デ是亦同時ニ負擔ガ殖エル譯
デアリマスカラ、此ノ點ニ付テ負擔ス
ルコトニ付テ難色ガアツタガ爲ニ遲レ
テ居ルノカ、ソレトモ役所ノ方デ陸上
労働者ノ方ハ特ニ重ク之ヲ保護シテ行
ク特殊ノ理由アリト認メテヤツテ居
レルノカ、ドノ點デ斯ウ云フ風ニナツ
タノカ、チヨツト私不思議ニ感ジタノ
デアリマス、本案ノ審議ノ上、又今後
色々改正ヲ行ハレル場合ノ參考ニモナ
リマスノデ、一應其ノ邊ノ事情ヲ承リ
タイ

○政府委員(伊藤謹二君) 實ハ陸上勞
務者ニ對スル厚生年金保險ナリ健康保
險ナリノ改正ハ昨年ノ議會デ行ハレマ
シテ、昨年ノ十月一日カラ非常ニ好ク
ナリマシタ、其ノ結果、船員トノ關係
ガ非常ニ權衡ノ取レナイモノニナツタ
譯デアリマスガ、事務當局ト致シマシ
テハ、陸上勤務者ニ對スル保險法ト船
員保險法トヲ併セテ今議會デ改正シテ、
兩々權衡ノ取レタ法案ニスルト云フコ
トデ參ツテ居ツタヤウデアリマス、私
ハ途中デ轉任シテ參リマシタカラ、ハ
ツキリ申上ゲ兼ねマスガ、左様ナ實情
デアツタラシイノデアリマス、處ガ厚
生年金保險法デハ、御承知ノヤウニ
「インフレ」シヨ」防止ノ意味ニ於テ

購買力ノ吸收ト云フコトヲ一刻モ早ク
行ヒタイ、斯様ナ希望ガ方々カラ出マ
シテ、從ツテ今年ノ議會ニ出スベキ豫
定デアツタ厚生年金保險ノ改正案ヲ、
急ニ線上ゲテ昨年ノ議會ニ提案スルト
云フコトニナツテ、事務當局ハ非常ニ
忙シイコトニナツタ、其ノ當時併セテ
船員保險ノ方ノ改正案モ同時ニ提出ス
レバ宜カツタノデアリマスガ、餘リ煩雜
デアツタノデ、事務上、船員保險法ノ
改正迄手ガ及ビ兼ねテ、已ムナク厚生
年金保險ダケガ一年先ニ出、船員保險
ガ一年遲レタト云フコトニナツタノデ
アリマシテ、別ニ船主ナリ、或ハ船員
ナリカラ、負擔ガ重クナルカラ厭ダト
云ツタヤウナ關係カラ遲レタト云フ事
情ハ全然ナインノデアリマス

○大橋八郎君 事情ヲ伺ツテヨク分リ
マシタガ、我々第三者カラ見マスト如
何ニモ妙ナ感ジガスルノデアリマス、
今後ハ成ルベク不權衡ノナイヤウニ併
セテ進ンデ戴クコトガ、同ジク保護ヲ
受ケル船員ノ立場カラ言ツテモ感ジガ
宜カラウト思ヒマス、序ニ其ノコトヲ
御願シテ置キマス

○委員長(伯耆二荒芳徳君) 之ヲ以テ
休憩致シマス、午後一時カラ再開ラ
致シマス
午前十一時四十二分休憩
午後一時十六分開會

○委員長(伯耆二荒芳徳君) 只今ヨリ
本委員會ヲ再開致シマス、政府委員カ
ラ、先刻委員カラノ要求ニ依ツテ御用
意ニナツタ圖表ニ付テ御説明ヲ伺ヒタ
イト思ヒマス、ドウゾ……
○政府委員(白石萬隆君) 船員局長白
石デアリマス、此ノ間ノ御質問ノ點ヲ
只今御説明申上ゲマス、尙新著任デア

リマシテ、細カイコトヲ知悉シテ居ラ
ヌコトガアルカト思ヒマスガ、説明漏
レノ所ハ御遠慮ナク御質問ヲ御願シタ
イト思ヒマス、從來大別シテ樂觀的ニ
言ヒマス、高等商船學校ヲ卒業シタ
者ハ高級船員、下ノ方ノ普通ノ養成所
アタリカラ出テ行ツタ者ガ普通船員、
斯ウ云フヤウナ工合ニ區別サレテ居
マス、其ノ概念ヲ先ヅ以テマシテ、商
船學校ヲ出タ者ガ高級船員トシテ運
會、現在監督官廳アル海運總局ノ下ニ
居リマシテ、現場ヲヤツテ居ル船舶運
會ニ一應身分ガ入リマス、同ジく普通船
員モ勤務動員署カラ通過シテ船舶運
會ニ吸收サレマス、其ノ外ニ普通海員
養成所、是ハ一般ノ府縣立モアリマス
シ、官立モアリマスガ、普通ノ船員養
成所ヲ通ツテ來タ者ガ此處ニ入ルノデ
アリマシテ、是等ノ者ガ船主ニ雇傭關
係ヲ結ビマシテ、此處デ所謂船乗ト云
フモノヲ構成シテ居ル譯デアリマス、
今度ノ制度ニ於キマシテ海運總局ハ船
舶運賃會……籍ハ船主ニ置イテ居リ
マスケレドモ、船舶運賃會ニ一應皆
ナ入レルコトニナツテ居リマス、其ノ
船舶運賃會ニ入ツテカラ、海運總局カ
ラハ待遇官吏ト云フ先程來説明ニモア
リマシタ進官吏ノ待遇ヲ受ケマシテ、船
舶運賃會ノ指示ニ依ツテ「エー」「ビー」
「シー」船ニ配乘サレマス「エー」「ビー」
ハ陸海軍ノ固有軍屬トシテ行ク譯
デアリマス、一般船舶ニ乗ツテ居ル中
デモ「エー」「ビー」ト殆ド同ジヤウナ場
面ニ於テ軍屬ト云フコトニナル者モア
リマスシ、然ラザル者モアリマス、斯
ウ云フ構成デ以テ「スター」シテ居
ルノデアリマスガ、此ノ待遇官吏ニ於キ
マシテハ海運士、是ハ軍人デ云ハバ士官
デアリマス、ソレカラ海運士補、是ハ

下士官兵、此ノ海運士ガ勅任カラ、奏
任一等カラ六等迄ゴザイマス、海運士
補ガ判任一等カラ四等迄アル、此ノ勅
任ノ分ハ高等官三等以上ノ者デ、三等
ヲ三年以上勤メタ者ノ中優秀ナルモノ
ヲ二十五人ヲ限ツテ、軍人デ云ハバ將
官級ニ上セル譯デアリマス、今ドウ云
フ所迄是ガ發令サレテ居ルカト申シマ
ス、二月一日ヲ以テ約〇〇名カノ高
級船員ガ待遇官吏トシテ發令サレテ居
リマス、人事ハ其ノ「スター」切ツ
タバカリデアリマシテ、是カラ二月一
杯、恐ラクハ三月ニ掛ツテ總テノ船員
ノ發令ヲ見ルモノト思ヒマス、是デ以
テ正シク名實共ニ待遇官吏トナル譯デ
アリマス、ソレカラ海運總局ノ下ニ
外郭團體トシテ翼贊會ノ下ニ附イテ居
ル日本海運報國團ト云フモノガアリマ
ス、ソレカラ日本海員救済援護會ト云
フノガアリマス、是ハ此ノ下ニ書イテ
アリマスヤウニ海運報國團ト云フモノ
ハ、船員ヲ側面カラ次ノヤウナ項目ニ
對シテ援護シテ居ル譯デアリマス、詰
リ必勝精神運動トカ、或ハ船員ノ不足
物資、需品ノ配給、宿屋、休憩所、青
年學校、各種ノ給炭トカ、精神訓練ヲ
ヤル練成所、斯ウ云フモノヲ海運報國
團デアツテ居リマス、是ハ主ニ現在働
イテ居ル船員其ノモノニ働キ掛ケル譯
デアリマス、救済援護會ノ方ハ病院設
備、ソレカラ保養、生活ノ援護、是ハ
主トシテ船員ノ病氣ニナツテ居ル者、
其ノ遺家族、或ハ家族ト云フ者ニ働キ
掛ケルト云フヤウナコトヲ致シテ居
マス、實例ヲ擧ゲマス海員宿泊所ハ
〇〇箇所、海員ノ休憩所ハ〇〇箇所、給
炭訓練所ハ〇〇箇所、病院ハ〇〇箇所、
保養所ハ〇〇箇所、更ニ神戸ニハ肺結核
ノ保養所ガ出來ツ、アリマス、斯ウ云

フモノデ船員並ニ船員ノ病氣ニナツタ者、其ノ遺家族、家族ト云フヤウナ者ニ手ヲ延バシテ居ル譯デアリマス、先程カラ船員保險ニ關シテ説明ガアリマシタガ、斯ウ云フヤウナ關係デ以テ船員ニ授護ノ手ガ延ビテ譯デアリマス、ソレカラ更ニ國家トシテハ傷害一時賜金、扶助、死亡一時賜金、斯ウ云フモノガアリマシテ、扶助ニ於テハ住宅ノ扶助、修養ノ扶助、助産ノ扶助、埋葬ノ扶助、ソレカラ傷害ニ關シテハ給與ノ何箇月分カラ支給スル、死亡賜金ニ付テモ何箇月分カラ支給スル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、次ニ國家ハ戰時ニ於ケル船員ノ功績ニ對シテ論功行賞ヲ行フ、又奇特ノ行爲ニ對シテハ表彰ヲシナケレバイカヌ、又亡クナツタ場合ニ於テハ表彰スベキ者ガアリマシタ場合ハ、公葬ヲ盛大ニヤラナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウナ事項ガアルト同時ニ、技術上ノ失敗ニ對シテハ斯ウ云フ間違ヒ、ア、云フ間違ヒト云フコトヲ審査シテ、海員審判所デ審判スル譯デアリマス、私ハ其ノ審判所長ヲヤツテ居ル譯デアリマス、ソレカラ表彰ノ裏面ニ於テ規則ヲ案リ、面白カラザル者ニ對シテハ懲戒委員會ガアツテ之ニ懲戒ヲ加ヘル、又軍規、法規ニ違反スルヤウナ者ハ軍屬ノ關係ニ於テハ軍法會議、然ラザル者ニ於テハ司法裁判所ヲ以テ之ニ當ル、ソレカラ軍屬並ニ軍屬ト同様ニ取扱ハレテ居ル者ハ靖國神社ニ合祀サレマス、以上デ大體デアリマスガ、然ラバ船員ハドウ云フ課程ヲ以テ是ガ船員ニナルノカト云フコトヲ更ニ詳細ニ申上ゲマス、此ノ圖ハ小サクテ見エマセウガ、此ノ赤線ノ枠ガ學校若シハ養成所デアリマス、此ノ長サハ一年ニナツテ居リマス、是ガ

一年毎ニ切ツテアリマス、此ノ幅ハ員數ノ大體ノ目安ヲ現ハシテ居リマス、中學卒業又ハ中學途中カラデモ入ツテ來タ者ガ高等商船學校ト高等商船學校ノ專科ニ入リマス、現在ハ高等商船學校ハ東京、神戸、清水ヲ合同シマシテ清水ノ一校ト云フコトニナツテ居リマス、每期〇〇名ツツ探ツテ居リマス、三年ノ課程ヲ出マスト少尉ニナリマシテ船ニ乗ツテ勤ク譯デアリマス、是ガ「ノルマル」ノ高級船員、ソレカラ一方東京、神戸、大阪、岡山、是等ヲ利用シマシテ專科高等商船學校ト云フモノガアリマス、是ハ一年九箇月ノ後ニ卒業シマスト海軍ノ兵曹長トナリマシテ甲種二等ノ資格デ以テ進ンデ參リマス、其ノ次ニ普通商船、是ハ國民學校、若シハソレ以下カラ入ツテ來マシテ、年ガ十六歳半ニナリマスト大體兵曹長ノ資格ヲ以テ卒業シテ一般ノ普通商船學校出ツテ勤ク譯デアリマス、右ノ外學校デハアリマセウガ、海員養成所、是ハ官立ガ六ツアリマス、ソコニ於テ每期〇〇人ノ養成ヲヤツテ居リマス、ソレハ卒業シマスト上等兵ニナツテ船員トシテ勤メル、全國ニ官立三箇所、ソレカラ此ノ運賃會ニ從來船會社トカ、或ハ公共團體トカ、色々ナモノガ所有シテ居ツタ普通海員養成所、船員講習所ト云フヤウナモノハ、逐一此ノ運賃會ニズツト統合サレマシテ、是ガ普通下級船員ノ大キナ主體デアリマシテ、大體ニ於テ〇〇ト云フ數字デ以テ一般ノ普通船員、是ガ下級船員ノ主體ヲナス譯デアリマス、斯ウ云フ狀況デ高等船員ト下級船員ガ育成サレマシテ、各志願ニ依ツテ海軍ノ軍籍ニ入り、是カラコツチハ學校ヘ入ルト同時ニ海軍ノ軍籍ニ入りマシテ、卒業ト同時ニソ

レゾレノ官等ガ與ヘラレマス、ソレカラ高級船員ニ於テハ試験ナクシテドン船長ニ迄ナレル、ソレカラ普通商船、或ハ專科ヲ卒業シタ者ハ一定ノ年限、海上勤務ヲヤツタ者ハ神戸ニ從來アリマシタ高等商船學校ヲ、此ノ四月カラ海軍專修學院ト云フヤウニシテ發足スル豫定ニナツテ居リマス、ソレハ入レテ再教育ヲスルト、從來ノ高等商船學校ト同ジ資格ヲ以テ進ンデ行ク譯デアリマス、斯ウ云フ進路ヲ開イテ船員ノ士氣昂揚ヲ圖リ、有材ノ士ヲ重ク用ヒルト云フ手段ヲ講ジタ譯デアリマス、ソレカラコツチノ一般ノ船員、海員養成所アタリカラ出テ來タ者モ一定ノ海上勤務ヲシタナラバ、普通海員養成所高等科ト云フモノニ入レテ、更ニ將來性ヲ持タシテ、其ノ中又良イ者ハ高等船員トナリ得ルヤウナ工合ニ專修學院ヘ入校セシメルコトガ出來ルヤウナ措置ヲ取ツテ居リマス、ソレカラ是ハ養成所モ何モ行カズニ、其ノ邊ノ船員ニ乘リマシテ海上ノ經歷ヲ相當持ツタ者、ソレハ皆是カラ是迄ノ者ハ試験ニ依ツテ或ハ高等海員養成所ト云フ一ツノ部門ヘ入レマシテ、將來性ヲ持タセ、希望ヲ持タシテ行ク、大體船員ノ教育ノ現狀ハ此ノ程度ノコトデゴザイマス、御質問ノ點ハ大體サウ云フ譯デアリマシタガ、之ヲ概括シテ見マスト云フト、船員ト云フモノガ現職局下ニ於テハ軍人以上ニ辛イ目ニ遭ツテ居ル、一言ニシテ盡セバサウ云フ譯デアリマス、ソレデ現在迄ノ各種各様ノ諸機關ガアリマスケレドモ、是ハマダウマク統合サレテ居ラナイ節ガアリマス、是ハ漸進的ニ統合サレテ、一絲亂レザル系統ヲ以テ船員ノ機動性ヲ持タシ、不平ヲ除キ、統一シテ、鍊成ニ於テモ志氣昂揚ニ於

テモ、遺族ノ扶養ニシロ、ソレカラ將來性及ビ希望ヲ持タス上ニ於テモ、一般ノ社會カラモ船員ハ御苦勞デアルト云フ面ヲ、サウ云フ面ニ於テ反映スベク努力中デアリマス

○委員長(伯耆三荒峯德君) 只今ノ説明ニ於テ數ニ互ル點ハ速記録カラ省ク希望ヲ政府委員カラ受ケマシタカラサウ御願ヒ致シマス

○子爵保科正昭君 二、三伺ヒマス、一番初メ仰シヤツタ高等商船學校、之ニ代ル所ハ何ト云フ機構、ドウ云フ機構ニナツテ居リマスカ、三年ノ所ヲ一年六箇月デ……

○政府委員(白石萬隆君) 説明ガマツカツタ關係上誤解ガアルカト思ヒマスガ、清水ノ高等商船學校ト云フモノハ此ノ線ノ如ク合同サレマシテ、〇〇〇人採ツテ三箇年ヲ要スル、是ハ動キマセウ、處ガ斯ウ云フ線デハマダ高級船員ガ足りナイ、ソレデ非常ニ迅速主義ヲヤリマシテ、茲ニ從來東京ト神戸ニアル兩所ヲ利用シマシテ一年九箇月ノ專科ト云フモノヲ取リマシテ、高等商船學校、本物ノ高等商船學校ニ準ズルヤウナ待遇ヲ、全ク資格ニ於テ同ジナノデアリマスガ、併シソレハ誰ガ見テモ少シコツチヨリハ下デアリマスカラ、此處デ再教育ヲヤツテコツチト肩ヲ竝ベテ……

リ海軍ノ資格ヲ得ルモノト思ヒマスガ、海軍ノドウ云フ資格ヲ得ルカ、少尉デナク、其ノ下ダト思ヒマスガ……

○政府委員(白石萬隆君) 專科一年九箇月受ケタ者ハ兵曹長デス

○子爵保科正昭君 兵曹長カラ累進シテ行クト、片方ノ仰シヤツタ官吏ノ文官ノ待遇、勅任官判任官ノ待遇トシテハドウ云フ關係ニナリマスカ

○政府委員(白石萬隆君) 少尉ニナリマスト海軍ノ軍人ト全ク同ジデス、或期間トソレカラ功績其ノ他色々技倆ニ依リマシテ拔擢ガアリマシテ、順々ニ上ツテ參リマス、ソレカラコツチノ方ハ此處ヘ行キマス、同格ニナリマス、斯ウ云フヤウナモノモ本當ニ優秀ナ分ト云フモノハ次々ト斯ウナツテ行ツテ、年限コソ掛リマスケレドモ、殆ド肩ヲ竝ベルヤウナコトニナツテ居リマス、累進スルノハ先程申シタ要領デ果進スル

○子爵保科正昭君 勅任官トカ委任官トカ云フコトハ海軍ニ於テハ終身官デアリマシテ、當然待遇デナイノデ、本當ノ資格ヲ有スルモノデアリマセウガ、ソレト委任官ト仰シヤツタノデスガ、重ツテ來ヤシナイデセウカ

○政府委員(白石萬隆君) 言葉ガ足りマセウデ、海軍ノ軍籍ニ入りマシテ、海軍ノ豫備員トシテ拔擢スル場合ニ今ノ進ミ方デアリマシテ、待遇官ノ官等ト云フモノハ豫備員ノトハ別問題デアリマス、等級ガ上ツテ行クコトハ一般官吏ノヤウニ上ツテ行キマス

○男爵神山嘉瑞君 チョット御伺ヒ致シマスケレドモ、大東亞戰爭後デゴザイマスネ、前途ニ於テ無論此ノ備員ノ確保ト大分違フト思ヒマス、大戰後ノ備員ノ何ト云ヒマスカ、確保上ノ數ハ

速記ヲ除イテ實ハマスガ、差支ヘナイ程度御説明願ヒタイと思ヒマス、大體ドノヤウナ趨勢ナリデアリマス、伺ヒマス所ハ陸上ノ輸送ト關係シマシテ、鐵道關係デモ相當員ノ確保ニハ非常ニ苦心ガアルヤウニ思フデアリマス、特ニ大戰後ニ於テノ職員ノ確保ハドノヤウナ狀態ニナツテ居リマスカ

○政府委員(白石萬隆君) 抽象的ニ申シマス、給源ガ或時期ニ於テ船員タルベキモノヲ補充シテモ、要求ノ方ガ餘リニ大キクテ、極端ニ言フナラバ勤勞ナントカ團體トカ、徵用ダトカ、陸軍トカ云フ方面ニ取ラレテシマヒマシテ、漁師デモナシテモ陸軍ノ徵用ニナリ、召集ニナルト云フ恰好デ船員ノ給源ガ相當枯渇シマシテ、其ノ後非常ナサウ云フ方面ノ補充運動ヲ起シマシテ、今ノ所カスノト云フコトニナツテ居リマスガ、マダ非常ニ我々ノ努力スベキ點ガ大キイト思ヒマス、極メテ抽象的デアリマスガ、ソレニハ非常ニ困難ヲ或時期ニ感ジテ居リマス、ソレカラ唯其ノ邊ノ者ヲ連レテ來テモ直グニ船員ニナリ得ルカト云フ、職工ノヤウナ工合ニハ行キマセヌ、矢張り二年ナリ三年ナリ漁船ニデモ乗ツテ居ツタ者ハ、相當連レテ來テモ役立ツノデアリマスガ、田舎カラ如何ニ善良ナ者ヲ連レテ來テモ、明日カラ役立ツカト云フツサウハ行キマセヌ、何年間ノ海上勤務ヲ經タ人間ナラ無學文盲デモ使ヘルノデスガ、然ラザルノ者ハ陸軍ノ兵隊ヲ海軍ニシタヤウナモノデ、何箇月間ハ殆ト話ニナラヌト云フ節ガアリマシテ、頭ガ揃フテモ、斯クノ如ク陸上勤務ト違ツテ海上勤務ト云フモノハ、少クトモ數箇月ノ間ト云フモノハ格段ノ勞苦ガアル、其ノ上ニ海面ニ於テハ危險性ニ

於テハハモウ陸上ノ兵隊ヨリモ遙カニ度ガ違フ、ソナ關係デアリマスカラ、薄志弱行ノ者ハ逃ゲル者モアリマス、或拘束ヲシナイ場合ハ、ソレカラ好イ加減ノ注文ヲ付ケタツテ來ル人間ハナイ、是ハ幾ラ日本人デアツテモ無理ガナイ節ガアル、ソレ等ガ總テ集ツテ色色ノ關係ノコトヲ政府並ニ國家團體ニ要求シタ譯デアリマスガ、マダノ船員ニ對スルヤリ方トシテハ、是デ満足ト云フ譯デヤナイと思ヒマス、差當リ戰局下ニ於ケル第一段的措置ト云ウテ差支ナイと思ヒマス、甚ダ脱線シマシタガ……

○子爵保科正昭君 モウ一ツ伺ヒタイノハハ妙ナ御話デスガ、保險何カノコトデ、保險ニ關係スルカラ參考迄ニ伺ツテ置キタイノデスガ、一體海員ノ收入ト云フモノハドノ位ノ程度ノ者ガ最高デアツテ、ドノ位ノ者ガドウ云フ風ナコトニナツテ居リマスカ、其ノ極メテ概要ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○政府委員(白石萬隆君) 現實ニ私ヲ標準ニシテ申上ゲマス、私ハ海軍ノ中將デアリマス、海軍ノコトヲ申上ゲテ「ソノ「スタンダード」ヲ決メル譯デスガ、サウシマス先ヅ大體ニ於テ五百圓何ボト云フコトガ決ルノデアリマ、ソレデ私位ノ年配迄勤メタ船長ト云フモノハ、モウ老船長デス、其ノ老船長ノ收入ガ先ヅ四百圓カ四百三十圓ト云フ所ガ大體最高級と思ヒマス、一番下ハ此ノ邊カラ出テ行ツタ者ハドウカト云フト五十二圓、此ノ邊ヲ出タ者ハ先ヅ百十圓位カと思ヒマス、係給令ヲ後御覽ニ入レマスガ、大體ノ觀念ハソナモノデアリマス、ソコデ船員ト云フモノハアツチヘ行ツタリコツチヘ來タリ、家族モアツチヘ行ツタリコ

ツチヘ來タリシテ二重生活、三重生活ト云フコトニナリマシテ、陸上ツタリ港ヘ行ツタリシテ非常ニ生活費ガ高イ、又定住シテ居ラナイ爲ニ非常ニ無駄ガアル、ソレデ今度色々ノ手當ノ問題ガ起リマシテ、本給ト手當ト「ボーナス」ト色々ノモノガアリマスガ、今度ノ給與ノ改正ニ於テハ本給ニ於テ高級船員ノ方ハ六「パーセント」ノ増、普通船員ニ於テハ七「パーセント」ノ増ニナリマス、サウシテ諸手當ヲ引括メマシテ、高級船員ハ從來例ヘバ四百圓貫ツテ居ツタ者ハ、今度更ニ前收入ノ三十四「パーセント」ノ増加ニナリマス、ソレカラ普通船員ハ五十三「パーセント」、約五割増デス、デスカラ物價ノ上リニ對シテはダケノ増ト云フコトニ現實ノ問題ハナル譯デス、大體三十五「パーセント」ノ増給サレル、ソレカラ普通船員ハ五割ノ増デアル、物價ハ三倍モ四倍モ上ツテ居リマスガ、大體斯ウ云フヤウナコトニナリマス、是ハ勞務者ノ一ツノ部分トチヨツト均衡ガ取レナイヤウニナリマスガ……

○政府委員(有田喜一君) チョット只今ノコトニ附加ヘテ申上ゲマス、一番分り易ク言ヒマス、平均給料ヲ申シ上ゲテ、船員ノ給料ハドノ位カト云フコトヲ申シ分り易イト思ヒマス、是ハ本年ノ一月二十五日カラ改正シタノデスガ、其ノ新シイ給料ノ規則ニ依リマス、高級船員ハ平均給料ガ百五十圓ニナツテ居リマス、普通船員ハ平均給料ガ七十七圓ニナツテ居リマス、其ノ他ニ先程船員局長ガ御説明シマシタヤウニ臨時乗船手當、或ハ戰時勤務手當、賞與トカ云フヤウナモノガ加ツテ、高級船員ハ平均致シマシテ所謂全體デ三十三「パーセント」上ツタト申シ

マシタガ、其ノ上ツタ結果全部ノ收入ト致シマシテハ四百二十圓弱ニナリマス、ソレカラ又普通船員ハ先程申シマシタヤウニ臨時乗船手當、戰時勤務手當或ハ賞與ヲ加ヘマシテ百七十七圓程度ニナツテ居リマス

○村上泰一君 船員ノ公ノ身分關係デスガ、是ハドウナツテ居ルノデスカ、當テハ海軍豫備員令トカ云フモノガアリマシテ、船員ハ海軍ノ豫備將校トシテ或ハ豫備准尉、豫備下士官ト云フヤウナモノガアツタヤウニ思ヒマスガ、今日ハドウナツテ居リマスカ、最近船員ハ總テ海運關係デアレハモウ實行サレテ居ルノデアリマスカ、或ハ船員ノ兵役關係ハドウナツテ居リマスカ、即チ船員ノ兵役ノ義務ハドウナツテ居ルノデアリマスガ、ソレ等ノコトニ付テ大體御説明ヲ願ヒタイと思ヒマス

○政府委員(白石萬隆君) 一般ノ船員ト言ヒマスカ、是ハ全體ニナリマスガ、高級船員ニ付テ先ヅ申上ゲマス、豫備員令ニ於テ、海軍ノ軍籍ニ入ツテ居ル待遇官吏ト云フ者ハ豫備員令トハゴツチヤニナラナイノデアリマシテ、待遇官吏ト云フ者ハ運營會ニ對スル者デ以テズツト待遇官吏ノ身分ガアリマス、運營會カラ雇關係ヲ示サレテ居ル譯デアリマス、處ガ軍籍ニ入ツテ居リマスカラ、豫備員令船ニ乗ツテ居ル時ハ別デアリマスガ、一度海軍ノ船ニ乗ツテ來マス、軍艦ノ方ニモ〇〇名程乗ツテ居リマスガ、ソレ等ハ軍人ト殆ト同ジ取扱デアリマス、前ハ豫備員何トカ、豫備將校、例ヘバ豫備少佐ト言ツテ居リマシタガ、此ノ頃ハ豫備ヲ取リマシテ全ク海軍ノ軍人ト同ジ取扱ヲ致シテ居リマス、何時デモ軍籍ニ入ツテ居リマスカラ海軍ニ引イテ來ラレルノ

デス、唯商船界ト海軍ト云フモノハ密接不可分ノ關係ニアリマスカラ、無理ニ取ツテ來ルト云フコトハ非常ニ商船ノ方ヲ弱體化スルト云フ譯デアリマス、從ツテ之ヲ陸軍ノ徵兵ノ方ニ取ルト云フコトハ出來ナイ、モウ海軍ノ軍籍ニ入ツハ居ルカラデス、唯海軍ガソレヲ引拔クカ引拔カナイカト云フコトハ商船ノ運營ト睨ミ合セテ適量ヲ取ル、デスカラ一般ノ大佐トカ少佐トカ云フ者ト同ジニ取扱ツテモ餘リニ損色ハナイト思ヒマス、ソレガ歸リマス、陸上ニ於テモ相當ノ功績ヲ上ゲタ者ハ中尉ガ大尉ニナル、豫備員令ニ依リサウ云フ身分ヲ以テ商船ニ乗ルト、豫備大尉ダツテ待遇官吏令ニ依ツテ何等ノ俸給何等ノ高等官デアツテ、是ハ海軍ノ豫備員ノ階級トハ全然別問題デアル譯デス

○村上泰一君 船員ハ軍人デスカ、軍屬デスカ、或ハ何レデモナイ者モアリマスカ

○政府委員(白石萬隆君) 船員ガ軍人デアル場合ニハ、船ニ乗ツテ居ル者ハ軍人デス、ソレカラ商船ニ乗ツテモ海軍ノ船若シクハ陸軍ノ方ニ行ツテ陸海軍ノ指揮官ノ命ニ依ツテ動イテ居ル者ハ皆軍屬デス、ソレカラ危險海面或ハ警戒海面デモ、海軍ノ中ニ入ツテ行動ヲ共ニスルヤウナ場合ハ軍屬トシテノ扱ヲスルト云フコトニナツテ居ル、一般ノ航海ヲシテ居ル者ハ軍屬デモ何デモナイ一般船員デス

○村上泰一君 船員ニ對スル論功行賞デスガ、ソレノ主管廳ハ何處デアリマスカ、結局ハ内閣ノ賞勳局ニ申立テルノハ軍部デスカ、或ハ海運總局ナノデスカ

○政府委員(白石萬隆君) ハッキリシ

タコトヲ私ハ自信ヲ以テ言ヒ兼ホマヌ
ガ、軍屬トカ或ハ軍人トカノ陸軍、海
軍ノ中ニ入ツテ居ル者ハ、是ハ陸軍、
海軍カラ一方ニ於テ軍刑法ノ拘束ヲ受
ケルト同様ニ、自分ノ功績ニ關シテハ
陸海軍デ之ヲ受ケル、其ノ申達ノ様式
ハドウ云フ經路ヲ取ツテ居ツテモ實際
之ヲ行フモノハ陸海軍デアル、ソレカラ
總局ニ關係シタモノハ是ハ總局ガ取扱
フ、其ノ場合ニ陸海軍ト均衡ヲ失シナ
イヤウニ一應調査シナケレバナラス、
極メテ常識的デアリマスガ、細カイコ
トハ十分ニ承知シテ居リマセヌ

○村上泰一君 最後ニ御伺ヒ致シタイ
ノハ現在ニ於ケル船員ノ需要供給ノ實
情デス、今日輸送ノ隘路ト云フコトガ
痛切ニ叫バレテ居リマス、其ノ隘路ヲ
打開スル爲ニハ船舶ガナケレバナラス
ト云フノデ、頗リニ船舶ノ建造ヲ急ガ
レテ居リマス、是ハ素人考カラシマシ
テモ直グ分カルコトデ、如何ニ多クノ
船舶ガ建造セラレマシテモ、之ヲ運轉
スルニ必要ナル船員ガナケレバ其ノ船
舶ヲ就航セシムルコトハ出來ナイノデ
アリマス、輸送ノ隘路ヲ打開スル爲ニ
ハ船舶ノ建造ニ並シテ、或ハソレニ先
立ツテ船員ノ充實ト云フコトガ必要デ
アラウト思フノデアリマス、ソコデ其
ノ方面ハ現在ドウ云フ狀況ニナツテ居
リマスカ、殊ニ此ノ船員志望者ガ國家
ノ要請ヲ充スニ足ル程アルカドウカ、
ソレハ上下各階級ノ學校ニ入學ヲ志望
スル者、又學校ニ關係ナイ自由ニ雇
入レルコトノ出來ル者ニ付キマシテ、
果シテ實際ハドウ云フ狀況ニナツテ居
リマスカ、私共ノ誠心ニ堪ヘナイ
ヤウナ心持モ致シマス、或ハ案外サウ
心配シナイデ宜イノカモ知レマセヌケ
レドモ、玆デ其ノ實情ヲ御話願ヒタイ

ノデアリマス、是ハ或ハ機密ニ互ル點
デ、速記ヲ停止スル方ガ宜イナラ其ノ
ヤウニシテ御話ヲ伺ヒタイと思ヒマス
○委員長(伯爵二荒芳徳君) 速記ヲ止
メテ
〔速記中止〕
○委員長(伯爵二荒芳徳君) 速記始メ
テ……
○政府委員(有田喜一君) 只今船員ガ
十分充足サレテ居ナイ、然ラバソレニ
對スル對策ヲドウ考ヘテ居ルカト云フ
御質問ガアリマシタガ、先程船員局長
ノ申シマシタ如ク、船員ノ充足狀況ハ
十分ト云フ程デハゴザイマセヌガ、遭
難船員或ハ船腹ノ建造狀況カラ見マシ
テ、現在デハ兎モ角一應ノ船ガ動ク狀
態ニハ船員ハ廻ツテ居リヤウナ次第デ
アリマス、併シナガラ之ニ對シテ樂觀
ヲ許シマセヌノデ、我々之ガ對策ト致
シマシテハ海員充足運動ノ外、最近船
員勸令ナルモノヲ總動員法ニ基キマ
シテ勸令ガ制定サレマシテ、是亦去ル
一月ノ二十五日カラ公布施行サレタヤ
ウナ次第デアリマス、其ノ勸令ニ依
リマス、所謂陸上ノ徵用サレタ人間
ヲモ、船員ノ經驗アル者ハ之ヲ勸員
シテ船員ニシテ徵用出來ル譯デアリマ
ス、非常ニ強イ法令デアアルノデアリマ
ス、現在船員トシテノ經驗者デ、陸上
上デ陸上勤務シテ居ル人ガ相當ゴザイ
マス、殊ニ漁船船員トシテ經驗ガアル、
而モソレガ現在漁船ニモ乗ラズニ陸上
上デ他ノ陸上勤務ヲサレテ居ル人ガ相
當アリマス、ソコヲニ給源ヲ求メマシ
テ、著々勸員令ヲ發動致シマシテ、左
様ナ人間ヲ徵用ヲ致シマシテ充足ヲシ
タイト考ヘテ居リヤウナ次第デアリマ
ス

色御苦心ガアルヤウデアリマスガ、從
ツテ船員ノ素質ノ低下シテ來ルコトハ
已ムヲ得ナイコトダと思ヒマス、私共
ノ聞イテ居リマス所デハ、船員ハ戰場
方面ニ於テハ相當勇敢ニ仕事ニ從事シ
テ居ルヤウデアリマスガ、港灣荷役方
面ニ於テハドウモ昔ノ船員ニ比較シマ
スト、餘程能率ガ擧ツテ居ナイ、熱意
ガ足ラヌヤウニ聞イテ居ルノデアリマ
ス、其邊ニ對スル當局ノ御感想ハ如何
デスカ、又果シテサウデアルトスレバ、
ソレハ單ニ素質ノ低下ニ因ルモノデア
リマスカ、或ハ色々船員ノ監督トカ、
其ノ他取扱等ガ變ツテ來テ居リマスカ、
サウ云フ機構ナドノ變ツタ影響デアリ
マスカ、其ノ邊ニ對スル御所感ヲ伺ヒ
タイと思ヒマス

○政府委員(白石高隆君) 今御質問デ
御述ニナツタ理由モ其ノ原因ヲ爲シ
テ居ルト思ヒマス、尙機構ノ改變ヲヤ
リマシタ關係上、船員ト云フモノガ籍
ハ船主ニアルケレドモ、自分ノ業務ノ
管理監督ヲサレルノ運營會デアルト
云フ、今邊渡ノ狀態ニアル關係ガ一ツ
ノ大キナコトダと思ヒマス、ソレカラ無
論船員ノ素質ガ前ヨリモ優良ナモノガ
ナクナツテ、後カラ後カラトドウカト
思フヤウナモノガ補充サレテ居ルノモ
一ツノ原因ヲ爲シテ居ル、ソレカラ平
時ハ夜通シヤレバ倍額ノ賞與トカ、
船員ニ對スル一時ノ刺激藥ヲ用ユルコ
トガ出來ルノデアリマスガ、今ハサウ
云フヤウナ方法ハ探ラレナイ、長ラク
洋上ニ於テ不眠不休デ働イテ居ツテ、
精根盡キテ港ニ歸ツテ來テ居ルト云フ
ノガ非常ニ多イト思フ、サウ云フ所ヲ
認識セシメテ、ヤレトト辿リ著イタ
ト云フヤウナ恰好デ來テ居ルモノヲ、
從來ノ平時狀態ニ夜寢ズニ、家族ノコ

トナドハドウデモ宜イカラ、此ノ次ノ
航海デモ宜イカラト云フヤウナコトデ、
夜晝寢ズニ叱咤勸勵シテ給金デモバラ
撒イテヤレバ一日二日デモヤレル、併
シ狀況ハサウデハナイ、草臥レ切ツ
タ、而モ素質ハ落チタ、而モ船員ニ對
スル手當ガ十分ニ各方面ニ行ツテ居ナ
イ、サウシテ之ヲ嚴重ニ取締ル法規ト
云フモノモ傳統的ニ不備デアル、コン
ナコトガアレヤ是ヤデ、先程仰シヤツタ
理由モ一緒ニナツテ能率ガ低下スルト
云フノハ、是ハ能率ヲ低下サセナイヤ
ウニ努力スルト云フノハ當局者ノ當然
ヤラナケレバナラスコトデアリマスガ、
サウ云フ傾向ガアルト云フノハ否メナ
イ、大體御分リニナツタと思ヒマス

○秋田三一君 船舶ノ運行ニ付テハ船
員ガ、高級船員、下級船員ト一體ト
ナツテ、一家ノ如ク密接ニ相連絡提携
シテヤツテコソ初メテ能率ガ擧ルノデ
アリマスガ、以前ハ其ノ邊ノ氣分モ能
ク出テ居ツタヤウデアリマスガ、最近
上下ノ關係ト云フモノガ次第ニ薄クナ
ツテルヤウナ風ニモ聞イテ居リマス、
是ハ或ハ機構ノ變ツタ點ノ影響カモ知
レナイ、又素質ノ低下シタ爲カモ知
レマスガ、之ニ對シテハ今御話ノヤウ
ニ法律上ノ制裁トカト云フ風ノモノモ、
或ハ換ヘル必要モ起ツテ來テ居ルノデ
ハナイカト思ヒマスガ、之ヲ改正シテ
行クト云フヤウナ御考ハゴザイマセヌ
カ、現在ソ儘デスツツヤツテオイデニ
ナルト考ヘラレマスカ

○政府委員(白石高隆君) 是ハ軍人ノ
眼カラ見マスト實ニダラシガナイ、極
端ニ言ヒマス、ソレデ一方ニ於テ船
員ノ士氣昂揚ノ爲ニ有テユル手段ヲ盡
シテ、現在水平線迄出テ居ナイ部面ハ
ドントノ水平線迄進出サス、之ト同時

ニ一方ニ於テ法規的ニ、其ノ日本精神
ニ訴ヘルノハ無論デアリマス、鍊成指
導スルノハ勿論デアリマスガ、法規的
ニ逸脱スルモノヲ取締ルト云フ面ニ於
キマシテハ、先程來御意見ノアリマシ
タヤウニ、單ナル考慮デアリマセヌ、
著々之ヲ進メテ居リマス、何カ良イ御
智慧ガアリマシタラ一ツソレヲ實行シ
タイと思ツテ、各方面ニ於テヤリ方ノ
具體案ニ付テハ研究ノ最中デアリマス、
遠カラズ何ガシカノ形式ヲ以テモウ少
シ取締ラナケレバナラスと思ツテ居リ
マス

○秋田三一君 船員ノ處遇ニ對シマシ
テ、政府トシテハ餘程優遇ノ意味ヲ以
テ待遇官吏ト云フコトヲ過般ナスツタ
譯デアリマスガ、是ハ實際ノ面ニ於テ
ハ果シテ船員ハ其ノ所期ノ如ク喜ンデ
之ヲ受ケテ居リマスルカ、此ノ邊ノ實
際ノ御感想ヲ御聽キシタイと思ヒマス、
又一面ニ於テハ私共聞イテ居リマス所
デハ、必ズシテモ政府ガ所期サレタヤウ
ニ喜ンデ居ラレドコロカ、實際ノ船
員ノ運營上ニ於テハ相當混亂ヲ來タシ
テ居ルト云フ風ニモ聞イテ居ルノデア
リマス、就中船主トノ關係ガ段々薄ク
ナリマシテ、是ハ運營會ノ手ニ移ツテ
來タ爲ニ機構ノ上ニ於テモ混亂ヲ來タ
ス、又人手ガ多クナツテ來タ、能率ノ
上ニ於テモ面白イ結果デナカッタト云
フヤウナ風ニモ聞イテ居ルノデアリマ
スガ、果シテ聞イテ居ルコトガ間違ヒ
デアリマスカ、是ハ實行ナサツタ政府ニ
御聽キスルノハ如何カト思ヒマスガ、
其ノ御感想ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○政府委員(白石高隆君) 是ハ現實ニ
船員ニ付テ、船會社ノ荷役場ニ付テ
詳シク見タ譯デアリマセヌ、又近クソ
レヲ見ル積リデアリマスガ、何十アツ

○秋田三一君 船員ノ補給ニ付テハ色

○政府委員(白石高隆君) 是ハ軍人ノ
眼カラ見マスト實ニダラシガナイ、極
端ニ言ヒマス、ソレデ一方ニ於テ船
員ノ士氣昂揚ノ爲ニ有テユル手段ヲ盡
シテ、現在水平線迄出テ居ナイ部面ハ
ドントノ水平線迄進出サス、之ト同時

タ船主ガ親分乾分ノ關係デ、營利ヲ主目標ニシテ晝夜兼行デヤラス從來ノ態勢ニ於テハ、ソレハサウ云フコトハ出來タノデアリマス、現在モ生命ガ吹キ飛ブカドウカト云フ所迄推進スルニハ、此ノ運營會ト云フモノニ統合シテ、サウシテ給與ニ於テモ何ニ於テモ、平均ニ於テ大局ニ於テ是ガ宜イノダト云フ所ニ發足シテ、今現在著々進メテ居ル譯デアリマス、從ツテ此ノ面ヲ見ルト、或會社ノ如ク極メテ尖銳ニ總テヲ鞭撻シテ、モウ俺コソハ第一人者デアル、營利會社トシテハ第一人者ト云フヤウナ晝夜兼行ノ努力ヲヤツテ居ル、サウ云フ所ニ於テハ船員ノ給與モ宜イ、有ラユル點ニ於テ宜イ、サウ云フ宜イ場面カラ見レバ、今度ノ低調デアルカモ知レナイ、併シナガラ運營會ノ出來タ所以ノモノハ、船主ガ自分ノ所ガ宜ケレバ宜イ、外ハドウデモ宜イ、海軍ノ要求ガドウアラウトモ、陸軍ノ要求ガドウアラウトモ、外ノ會社ハドウアラウトモ、自分ノ所ダケ宜ケレバ宜イト云フ勝手ノ主義デナク、全體トシテ自分ノ所ハ斯ウヤル、オ前ノ所ハ斯ウヤレ、船モ船主モ非常ニ機動性ヲ持タス、ドコノ船モ海軍ノ軍人ノ如クヤツテ行ク、從ツテ船ノ中ノ船長以下船員ノ末梢ニ至ル迄、恰モ軍艦ノ艦長ガ一卒ニ至ル迄掌握シテ威令行ハレルヤウニ持ツテ行キタイ、是ガ理想デアリマスカ、是ハソコニ統帥權ト云フ問題ガナイ、ドウシテモ單ナル抱負デアツテ、結局良心ニ訴ヘ、日本精神ニ訴ヘテ、是カラ著々指導シナケレバナラナイト思ツテ居リマス、先程來御質問ノ、昔ノ方ガ宜イノデヤナイカト云フ場面ハナキニシモアラズデアリマス、此ノ戰局ニ於テハ從來ノヤウナヤリ方ヲ執ツ

テ居ツタノデハ到底行ケマセヌ、極端ニ言フナラバ、爲ニスル所アツテ、或場合ハ昔ノ斯ウ云フ部分ガ宜イノダ、ア、云フ部分ガ宜イノダ、宜イ所バカリヲチョツトト擧ゲテ、恰モ皆ヲ惑ハスヤウナ言葉モ巷間ニ相當傳ツテ居リマス、併シ政府ハサウ云フモノハ見向キモセズニ、驕地ニ此ノ時局下ニ於テ至ラザル所ハ鍊成ヲシテ、又指導シテ邁進スルト云フ考ヲ持ツテ居リマス

○渡邊慶造君 只今政府委員カラ船員勳員令ト云フノガアルサウデスカ、參考資料ヲ戴キタイノデスカ、委員長ニ於テ御取計ラヒ願ヒマス

○委員長(伯爵二荒芳德君) 只今渡邊委員カラノ御要求、用意ヲ願ヒタイト思ヒマス、如何デゴザイマスカ、別ニ御質問ガナケレバ今日ハ此ノ程度ニ散會致シタイト思ヒマスカ……

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員長(伯爵二荒芳德君) ソレデハ明日ハ午後一時カラ本委員會ヲ開キマス、今日ハ是デ散會ヲ致シマス

午後二時二十二分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵二荒 芳德君
副委員長 男爵柴山 昌生君
委員

侯爵中御門經恭君
子爵保科 正昭君
子爵大久保教尙君
村上 恭一君
田邊 治通君
大橋 八郎君
男爵神山 嘉瑞君
渡邊 覺造君
秋田 三一君

國務大臣

厚生大臣 廣瀨 久忠君

政府委員

厚生政務次官 中井川 浩君

厚生參事官 馬場 元治君

厚生省勤務局長 中村敬之進君

厚生省保險局長 伊藤 謹二君

厚生書記官 花澤 武夫君

運輸通信省海運總局長官 小野 猛君

運輸通信省海運總局長官 有田 喜一君

運輸通信省海運總局長官 瀧山 敏夫君

運輸通信省海運總局長官 白石 萬隆君

運輸通信省海運總局長官 萬隆君

運輸通信省海運總局長官 萬隆君

運輸通信省海運總局長官 萬隆君

昭和二十年二月六日印刷

昭和二十年二月七日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局